SONY

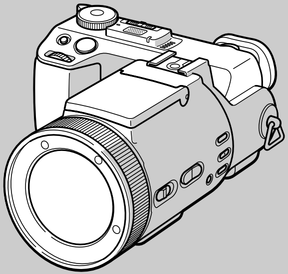
3-078-046-02 (1)

取扱説明書

サイバーショット応用編／困ったときは

警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「サイバーショット基本編」、「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

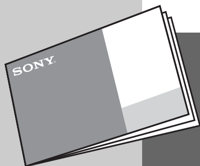


Cyber-shot
Digital Still Camera

InfoLITHIUM ™ M SERIES

MEMORY STICK ™

DSC-F717



別冊の
「サイバーショット基本編」
もご覧ください。

目次

操作の前に

静止画を撮る（応用）

静止画を見る（応用）

静止画を編集する

動画を撮る

静止画／動画を楽しむ

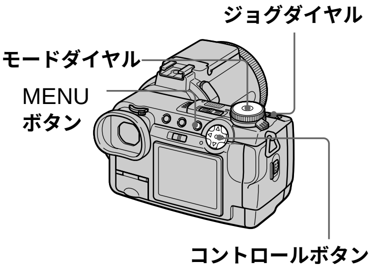
困ったときは

その他

別冊の「サイバーショット基本編」に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、本書では「**別冊基本編 →**ページ番号」のようにご案内しています。

本機の設定／操作のしかた

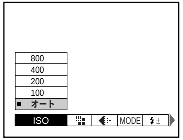
ここでは、本書でよく使われるメニューやSET UP画面の使いかたをまとめて説明します。



メニューの設定を変える

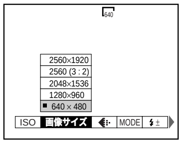
1 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。



2 コントロールボタンの◀/▶を押し、設定したい項目を選ぶ

選ばれた項目の文字・記号が黄色に変わります。



3 コントロールボタンの▲/▼を押し、設定を選ぶ

選ばれた設定の枠が黄色に変わり、そのまま決定されます。

メニュー表示をやめるには

MENUボタンを押してください。

SET UP画面で設定を変える

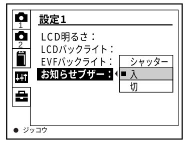
1 モードダイヤルを「SET UP」にする

SET UP画面が表示されます。



2 コントロールボタンの▲/▼/◀/▶を押し、設定したい項目を選ぶ

選ばれた設定の枠が黄色に変わります。



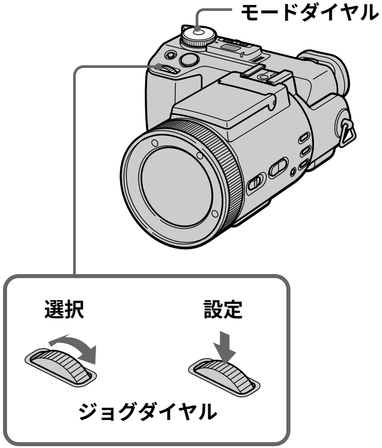
3 コントロールボタンの中央の●を押し、設定（実行）する

SET UP画面表示をやめるには

モードダイヤルを「SET UP」以外にしてください。

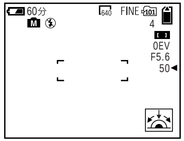
ジョグダイヤルの使いかた

手動調整モード（シャッタースピード優先モード、絞り優先モード、マニュアル露出モード）や露出補正を使って撮影したり、AF測距枠を変更するときは、ジョグダイヤルで設定値を変更します。



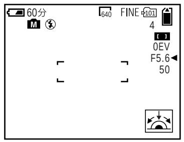
1 モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」、「」のいずれかにする

画面右側に設定できる項目が表示されます。



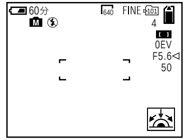
2 ジョグダイヤルを回し、設定したい項目を選ぶ

黄色い◀マークが移動し、設定したい項目が選べます。



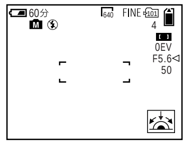
3 ジョグダイヤルを押す

数値が黄色で表示されます。



4 ジョグダイヤルを回し、数値を選ぶ

数値は表示された状態で決定されます。

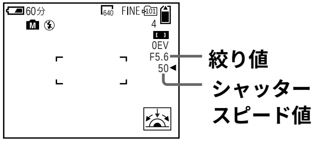


5 他の項目を設定するときは、ジョグダイヤルを押してから、手順2～4を繰り返す

手動調整して撮る

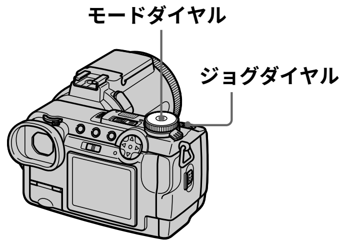
モードダイヤル：S/A/M

撮影目的に合わせてシャッタースピード／絞りを手動調整できます。



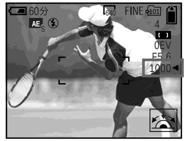
モードダイヤル	説明
S	シャッタースピードを優先するモードです。被写体の明るさに応じた適正露出になるように、その他の設定は自動調整されます。
A	絞りを優先するモードです。被写体の明るさに応じた適正露出になるように、その他の設定は自動調整されます。
M	シャッタースピードと絞りを撮影条件に合わせて手動で設定するためのモードです。

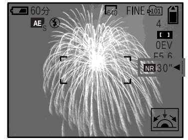
- モードダイヤルが「S」、「A」、「M」のときはナイトショット、ナイトフレーミングは使えません。
- 動画撮影時は手動調整できません。
- 設定後、適正露出が得られない場合、シャッターボタンを半押しすると、画面の設定値表示が点滅することがあります。そのまま撮影できますが、設定し直すことをおすすめします。
- フラッシュは自動発光しません。
- モードダイヤルを「S」、「A」にしたときは露出補正値を調整することができます（11ページ）。



シャッタースピード優先モード

被写体の動きを止めたり、逆に流動感を強調する撮影などに便利です。


1/1000秒時（最短）


30秒時（最長）

1 モードダイヤルを「S」にする

2 シャッタースピード値を選ぶ

ジョグダイヤルで選びます（5ページ）。1/1000秒から30秒の範囲で、シャッタースピードを選べます。

1/25秒またはそれよりも遅い設定のシャッタースピードを選択すると、シャッタースピードの前に「NR」と表示され、自動的にＮＲスローシャッターモードに入ります。

- 1秒以上は「1"」のように「"」が表示されます。

NRスローシャッター
NRスローシャッターとは撮影した画像からノイズを除去し、きれいな画像を得る機能です。手ぶれを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。

シャッターボタンを深く押しこむ。
↓
設定されているシャッタースピードの時間だけ露光し、画面が黒くなり、「撮影中」と表示される。
↓
設定されているシャッタースピードの時間だけノイズを低減する処理を行い、「処理中」と表示される。
この時、カシャッとシャッター音がします。
↓
「処理中」の表示が消えると、画像が記録される。

絞り優先モード

被写体と背景の両方、または被写体のみにピントを合わせたいなど、ピントの合う範囲を変える時に便利です。



絞り値F2（最小）



絞り値F8（最大）

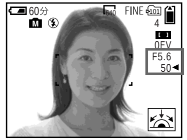
1 モードダイヤルを「A」にする

2 絞り値を選ぶ
ジョグダイヤルで選びます（5ページ）。F2からF8の範囲で選べます。

- ズーム位置によって選べる範囲は変わります。
- シャッタースピードは1/1000秒から8秒の範囲で自動調整されます。絞り値をF5.6以上に設定した場合は1/2000秒からになります。

マニュアル露出モード

シャッタースピードと絞り値を、撮影目的に合わせて手動で調整できます。



設定した値と本機が判断した適性露出の差が画面上にEV値（11ページ）で表示されます。0EVが本機が最適と判断した値です。

1 モードダイヤルを「M」にする

2 シャッタースピード値を選ぶ
ジョグダイヤルで選びます（5ページ）。

3 絞り値を選ぶ
ジョグダイヤルで選びます（5ページ）。

ピント合わせの方法を選ぶ

モードダイヤル：P/S/A/M/SCN/

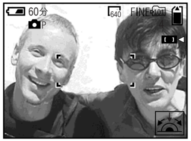
測距枠選択

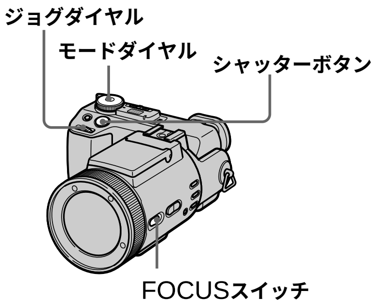
マルチポイントAF、中央、左、右、下、上の6種類のAF測距枠から選択することができます。
中央、左、右、下、上の測距枠を選択すると、測距枠内でAFにすることで、狙った部分にピントを合わせることができます。



マルチポイントAF

マルチポイントAFを使うと、中央を中心に左右の3か所で距離を測定するので、構図に依存しないオートフォーカス撮影ができます。被写体がフレームの中心になくピントの合わせづらい場合に有効です。
お買い上げ時はマルチポイントAFに設定されています。



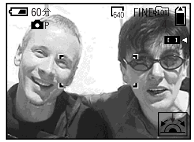


1 モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」、「」のいずれかにする

2 FOCUSスイッチを「AUTO/ZOOM」にする

3 AF測距枠を選ぶ

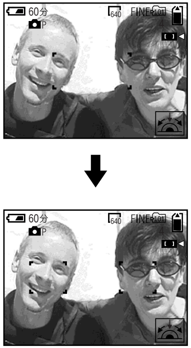
ジョグダイヤルで選びます（5ページ）。マルチポイントAF、中央、左、右、下、上の中から選べます。



シャッターボタンを半押ししたときにピントが合うと、枠の色が白から緑色に変わります。

AFロック撮影をする

- デジタルズームやホログラフィックAFを使用するときは、中央付近の被写体を優先したAF動作になります。この場合、AF測距枠は表示されません。
- 手順**3**でマルチポイントAFを選択した場合、ピントが合うと測距をおこなった緑色の枠が表示されます。



被写体がフレームの中心になくピントが合わせづらい場合は、測距枠を選択して撮影することができます。
たとえば2人の人物を撮るとき、中央に隙間があると、背景にピントが合う場合があります。このようなときは、AFロックを使用し、ピントを狙った被写体に合わせて撮影します。

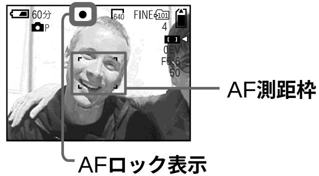
- AFロックを使うと、画面端に被写体があるときにも、ピントが合った画像を撮ることができます。
- FOCUSスイッチは「AUTO/ZOOM」にしてください。

1 モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」、「(クリップモーション、マルチ連写)」のいずれかにする

2 FOCUSスイッチを「AUTO/ZOOM」にする

3 被写体がAF測距枠内に入るように構図を変え、シャッターボタンを半押しする

まず、ねらった被写体にピントを合わせます。AE/AFロック表示が点滅から点灯に変わるとピピッと音がしてピント合わせ完了です。



4 半押しのまま構図を戻して、シャッターボタンをさらに押し込む

人物にピントが合った状態で撮影されます。

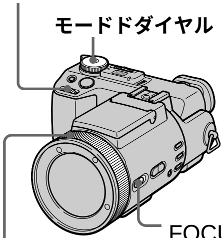


- AFロックの操作はシャッターボタンを押し込む前であれば、何回でもやり直せます。

手動でピントを合わせる

モードダイヤル：📷P/S/A/M/SCN/🎞

通常は自動的にピントの調節が行われています。
暗い場所などでオートフォーカスが効きにくいときに使います。



1 モードダイヤルを「📷P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」、「🎞」のいずれかにする

2 FOCUSスイッチを「MANUAL」にする

手動ピント合わせ表示Ⓕが表示されます。

3 マニュアルフォーカス／ズームリングを回し、ピントを合わせる

フォーカス距離情報が表示されます。SET UPで［拡大フォーカス表示］を［入］にしていると、静止画撮影時は画面の画像が2倍*に拡大されます。調節が終わると元に戻り、Ⓕが黄色から白色に変わります。ただし、動画（MPEGムービー）撮影時や、［拡大フォーカス表示］が［切］の場合は画像は拡大されません。
2 cm〜∞（無限遠）の間で調節できます。

* デジタルズーム時はデジタルズームの倍率に応じて1〜2倍に拡大されます。

自動調節に戻すには

FOCUSスイッチを「AUTO/ZOOM」にしてください。

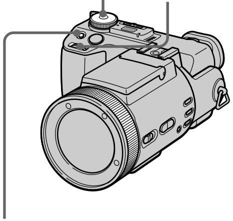
- フォーカス距離情報は正確な距離ではありません。目安として使用してください。
- NIGHTSHOT時およびSET UPの［コンバージョンレンズ］が［入］の場合、フォーカス距離情報は表示されません。
  Ⓕが点滅したときは、2 cmまたは∞に到達したことを表します。
- NIGHTFRAMING時、マニュアルフォーカス機能は使用できません。
- マニュアルフォーカスのときはマクロ撮影ができません。
- ズームをご使用の場合には、ZOOMボタンをお使いください（**別冊基本編** ➡ 21ページ）。

露出を補正する

ー EV補正

モードダイヤル：📷P/S/A/SCN/🎞

自動的に決定された露出を撮影者の意図する露出に変えるときに使います。補正する数値は+2.0EVから–2.0EVの範囲で、1/3EVきざみで設定することができます。



1 モードダイヤルを「📷P」、「S」、「A」、「SCN」、「🎞」のいずれかにする

2 ボタンを押す

3 ジョグダイヤルで補正値を選ぶ

被写体の背景の明るさを確認しながら調節してください。



自動露出に戻すには

露出補正値を0EVに戻してください。

- 被写体が極端に明るいときや暗いとき、またはフラッシュを使って撮影したときは、設定した補正が効かないことがあります。

撮影のテクニック

通常の撮影時、本機は自動で露出を補正しています。撮影画像を確認し、下の画像のようになっていたら、手動調節することをおすすめします。逆光の人物や雪景色で撮影するときは＋の方向に、画面いっぱいに黒い被写体を撮影するときなどは－方向に補正すると効果的です。



露出不足 → ＋方向に補正



適正な露出



露出過剰 → －方向に補正

ヒストグラムを表示する

ヒストグラムとは、画像に含まれる画素の明るさをグラフ化したもので、横軸が明るさ、縦軸が画素数を示しています。撮影／再生時にヒストグラムを表示すると、適正な露出を判断する参考になります。



1 モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「SCN」のいずれかにする

2 DISPLAYボタンを押してヒストグラムを表示する

3 ヒストグラムを参考に、露出を調整する



露出を＋方向に補正するとヒストグラムは右側にずれる



露出を－方向に補正するとヒストグラムは左側にずれる

- モードダイヤルを「」、「M」の位置にしてもヒストグラムは表示されます。露出の調節はできません。
- 静止画のシングル画面での再生時（**別冊基本編** ➡ 31ページ）、クイックレビュー時（**別冊基本編** ➡ 19ページ）にも、DISPLAYボタンでヒストグラムを表示することができます。
- 下記の場合、ヒストグラムは表示されません。
  - －モードダイヤルを「SET UP」、「」にしたとき
  - －メニューを表示しているとき
  - －ブラケットモードで撮影した画像のクイックレビュー時
  - －再生ズーム時
- 下記の場合、⊗が表示されます。
  - －デジタルズーム領域での撮影時
  - －2560（3:2）の撮影／再生時
  - －静止画の回転時
- 撮影前のヒストグラムはそのときに画面に表示されている画像のヒストグラムをあらわしています。シャッターボタンを押す前と押した後では、ヒストグラムに差が生じます。その場合は、シングル画面での再生、またはクイックレビューで確認してください。

  特に下記の場合は大きく差が出ます。
  - －フラッシュ発光時
  - －ナイトフレーミング時
  - －［P.エフェクト］が［ソラリ］に設定されている時
  - －スローシャッター、高速シャッター時
- 他機で撮影した画像はヒストグラムが表示されないことがあります。

測光モード

モードダイヤル：P/S/A/M/SCN/🎞

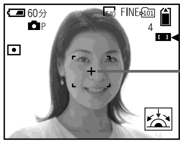
様々な撮影状況や撮影目的に合わせた測光モードを選ぶことができます。

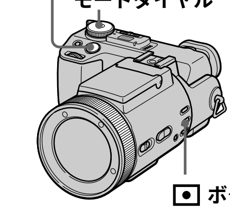
マルチパターン測光（表示なし）
画面を多分割し、それぞれを測光します。被写体の位置や背景の明るさをカメラが判断してバランスのよい露出を決めます。
お買い上げ時はマルチパターン測光に設定されています。

中央部重点測光（◎）
画面の中央部に重点をおいて測光します。撮影意図に合わせて、中央部付近の被写体の明るさを基準に露出を決めます。

スポット測光（⊡）
被写体の特定の部分を測光します。逆光のときや被写体と背景とのコントラストが強いときでも、撮りたい被写体に露出を合わせることができます。
撮りたいポイントにスポット測光照準を合わせて撮ります。

- 測光する場所とフォーカスを合わせる場所を一致させたいときは、測距枠選択の中央を使うことをおすすめします（8ページ）。
- NIGHTSHOT、NIGHTFRAMING時は測光モードは選べません。





1 モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」、「🎞」のいずれかにする

2 ⊡ ボタンを繰り返し押して、希望の設定を選ぶ

→ マルチパターン測光（表示なし）
↓
中央部重点測光（◎）
↓
スポット測光（⊡）

3 撮影する
シャッターボタンを軽く押し、本機の自動調節が完了したら撮影します。

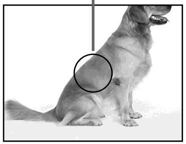
露出を固定して撮る

ー AE LOCK

モードダイヤル：📷P/S/A/SCN/🎞

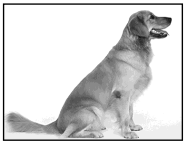
AE LOCKボタンを押すと、その構図での露出を固定します。スポット測光で適正露出にしたい部分を測光し、その後、構図を変えて撮影するときなどに有効です。

適正露出にしたい部分

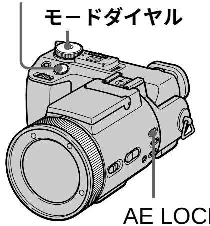


露出を決める。

⬇



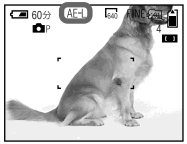
被写体を撮影する。



1 モードダイヤルを「📷P」、「S」、「A」、「SCN」、「🎞」のいずれかにする

2 欲しい露出の得られる方へ本機を向け、AE LOCKボタンを押す

露出が固定され、AE-Lマークが出ます。



3 被写体へ向き直り、シャッターボタンを軽く押す

フォーカスを調節します。

4 シャッターボタンを深く押し込む

AE LOCKを解除するには

以下のいずれかの操作を行います。

- 手順2の後でもう一度AE LOCKボタンを押す。
- 手順3の後でシャッターボタンから指を離す。
- 手順4でそのまま画像を撮る。

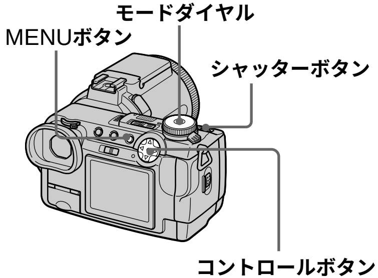
最適な露出を探す

ー ブラケット

モードダイヤル： 📷/📷P/S/A/M/SCN

自動的に露出を変えて3枚の画像を連続して撮影します。露出補正量の設定は、適正露出を中心に1/3EVごとに＋1.0EVから－1.0EVの範囲で選択できます。





1 モードダイヤルを「SET UP」にする

SET UP画面が表示されます。

2 ▲/▼で［📷2］（カメラ2）、▶/▲/▼で［ブラケット設定］の順に選び、▶を押す

3 希望の露出振り幅を▲/▼で選び、中央の●を押す

±1.0EV：露出値を上下に1.0EVずらして撮影します。

±0.7EV：露出値を上下に0.7EVずらして撮影します。

±0.3EV：露出値を上下に0.3EVずらして撮影します。

4 モードダイヤルを「📷」、「📷P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」のいずれかにする

5 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

6 ◀/▶で［MODE］（撮影モード）、▲/▼で［ブラケット］を選ぶ

7 撮影する

通常撮影に戻すには

手順6で［通常撮影］を選んでください。

- フラッシュは使えません。
- 撮影中は画面に画像が出ません。シャッターボタンを押す前に構図を決めておいてください。
- フォーカスとホワイトバランスは、最初の1枚目に設定された値に固定されます。
- EV補正をしているときは（11ページ）、EV補正値を中心に露出を変えて撮影します。
- 撮影の間隔は約0.5秒です。
- ブラケット撮影をするときは、1/25秒またはそれよりも遅いシャッタースピードは選べません。

色合いを調節する

— ホワイトバランス

モードダイヤル：📷P/S/A/M/SCN/🎞

オート撮影のときは、撮影状況に応じてホワイトバランスが自動的に設定され、全体の色のバランスが調整されます。撮影条件を固定したいときや特定の照明状態で撮影するときは、マニュアルで設定することができます。

オート（表示なし）
ホワイトバランスを自動調節する

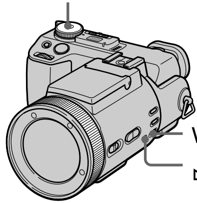
（ワンプッシュ）
光源に合わせてホワイトバランスを一定の設定にするとき

☀（太陽光）
戸外で撮るときや夜景やネオン、花火や日の出、日没などを撮影するとき

☁（曇天）
くもり空の時に撮影するとき

（蛍光灯）
蛍光灯の下で撮影するとき

（電球）
- パーティー会場など照明条件が変化する場所
- スタジオなどビデオライトの下



1 モードダイヤルを「📷P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」、「🎞」のいずれかにする

2 WHT BALボタンをくり返し押して希望の設定を選ぶ

（ワンプッシュホワイトバランス）モードで撮る

1. 被写体を照らす照明条件と同じ所に白い紙などを置き、画面いっぱいに映す。
2. を押す。
   表示が速い点滅に変わります。ホワイトバランスが調整されてカメラに記憶されると、点灯に変わります。
   表示が点滅している間は、本機を動かさないでください。

自動調節に戻すには

手順**2**で［オート］を選んでください。

- ちらつきのある蛍光灯のもとでは、を選択してもホワイトバランスが合わないことがあります。
- フラッシュ発光時にはマニュアルの設定が解除されオートモードで撮影されます。

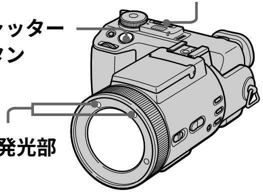
- [WB icon]表示について
  遅い点滅：ホワイトバランスが未設定または設定できなかった場合
  速い点滅：[WB icon]を押したあと、ホワイトバランス調整中
  点灯：ホワイトバランス設定終了
- [WB icon]ボタンを押しても[WB icon]表示が点滅から点灯に変わらない場合は［オート］で撮影してください。
- ワンプッシュホワイトバランスの設定を行うと、画面が一瞬青一色になります。
- NIGHTSHOT、NIGHTFRAMING時はホワイトバランスは設定できません。

撮影のテクニック

被写体の見ための色は、光の状況に影響されます。夏の太陽のような光の下ではすべてのものが青っぽく見え、電球のような光源の下では白いものが赤っぽく見えます。人間の目にはすぐれた調節機能があり、光が変わってもすぐに正しい色を認識できます。しかし、デジタルスチルカメラは光の影響を大きく受けます。通常、本機は調節を自動で行なっていますが、撮影画像を再生してみて画面全体が不自然な色合いのときはホワイトバランスの設定をすることをおすすめします。

暗闇で撮る

モードダイヤル：[camera]/[camera]P/[movie]



- フィルター（別売り）によっては赤外線がさまたげられます。
- NIGHTSHOT、NIGHTFRAMINGの推奨撮影距離は約0.3 m〜4.5 mです。
- SET UPの［コンバージョンレンズ］（74ページ）が［入］の場合、NIGHTSHOT、NIGHTFRAMINGは使用できません。

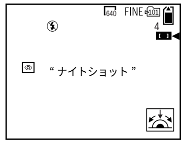
NIGHTSHOT（ナイトショット）

夜間に動植物を観察するときやキャンプなど、暗い場所で撮影できます。

1 モードダイヤルを「[camera]」、「[camera]P」、「[movie]」のいずれかにする

2 NIGHTSHOT/NIGHTFRAMINGスイッチを「NIGHTSHOT」にする

[icon]と“ ナイトショット ”という表示が点灯します。“ ナイトショット ”は約5秒後に消えます。



3 撮影する

解除するには

NIGHTSHOT/NIGHTFRAMINGスイッチを「●」にしてください。

静止画を撮る（応用）

NIGHTFRAMING（ナイトフレーミング）

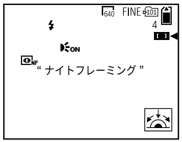
- NIGHTSHOT中は以下の操作ができません。
  – ホワイトバランス
  – 測光モード切り換え
  – AE LOCK
  – ホログラフィックAF撮影
  – フラッシュ撮影
- 昼間の屋外の明るいところでは使用しないでください。故障の原因になります。
- NIGHTSHOTで撮影中の画像は、正しい色が表現されません。
- NIGHTSHOT時、オートフォーカスが合いにくいときは、マニュアルフォーカス（10ページ）をご使用ください。ただし、フォーカス距離情報は表示されません。
- NIGHTSHOT時、無効なキー操作をするとが点滅し、“ ナイトショット ”表示が約5秒間点灯します。
  ただし、ブラケット／マルチ連写／3枚連写時にフラッシュモードを選択した場合は、BRK／／表示が点滅します。

夜間でも被写体を確認でき、フラッシュによる自然な色合いで撮影ができます。

1 モードダイヤルを「」、「P」、「（クリップモーション）」のいずれかにする

2 NIGHTSHOT/NIGHTFRAMINGスイッチを「NIGHTFRAMING」にする

NFと“ ナイトフレーミング ”という表示が点灯します。“ ナイトフレーミング ”は約5秒後に消えます。



3 シャッターボタンを軽く押す

補助光（ホログラフィックAF）（**別冊基本編** ➡ 25ページ）が発光し、フォーカスを自動調節します。

4 シャッターボタンを深く押し込む

カシャッと音がしてフラッシュが光り、撮影されます。

解除するには

NIGHTSHOT/NIGHTFRAMINGスイッチを「●」にしてください。

- NIGHTFRAMING中は以下の操作ができません
  – ホワイトバランス
  – 測光モード切り換え
  – AE LOCK
  – マニュアルフォーカス
- シャッターボタンを半押しにした状態でカシャッと音がしますが、シャッターを切る音ではありません。この時はまだ撮影されていません。
- ブラケットおよび3枚連写のときはフラッシュは発光しません。BRK／表示が点滅します。
- その他の無効な操作をすると、アイコンが点滅し、“ ナイトフレーミング ”表示が約5秒間点灯します。

コマ送りの画像を撮る

ー クリップモーション

モードダイヤル：

静止画（GIFアニメ）を連続して撮影できます。ファイル容量が小さいので、ホームページに載せたり、Eメールに添付したりするときに便利です。

- クリップモーションの撮影に使用する色の数は256色以下に制限されています。これはGIF形式の記録の特性によるものです。このため、画像によっては画質が落ちることがあります。

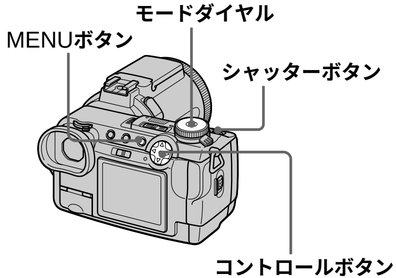
ノーマル（160×120）
最大10コマのクリップモーションを撮影できます。ホームページなどでの利用に適しています。

モバイル（120×108）
最大2コマのクリップモーションを撮影できます。携帯電話などでの利用に適しています。

- モバイルモードは、ファイルサイズを小さく抑えているため画質が落ちます。
- クリップモーションの撮影枚数は69ページをご覧ください。

操作の前に

SET UPの［動画選択］を［クリップモーション］にしておきます（4、74ページ）。



1 モードダイヤルを「」にする

2 MENUボタンを押す
メニューが表示されます。

3 ◀で［］（画像サイズ）、▲/▼で希望のモードを選ぶ

静止画を撮る（応用）

4 1コマ目を撮影する



5 次のコマを撮影する

撮りたいコマ数だけシャッターボタンを押し、繰り返し撮影します。

6 中央の●を押す

全コマが“ メモリースティック ”に記録されます。

撮影した画像を途中で削除する

1 手順**4**または**5**で、◀（⊡）を押す。

撮影した画像が順番に再生され、最後の画像で止まります。

2 MENUボタンを押し、◀/▶でメニューから［最後のみ削除］または［すべて削除］を選び、中央の●を押す。

3 ▲で［実行］を選び、中央の●を押す。

手順**2**で［最後のみ削除］を選んだ場合は、手順**1**から**3**を繰り返すと、新しい画像から順に削除されていきます。

- 手順**6**を行わないと、画像は“ メモリースティック ”に記録されません。それまでは、本機に一時的に記録されています。
- クリップモーションでは、日付・時刻は挿入されません。
- クリップモーションをインデックス画面で見ると、実際の画像とは違って見える場合があります。
- 本機以外で作成したGIFファイルは、本機では正しく表示されない場合があります。

マルチ連写で画像を撮る

ー マルチ連写

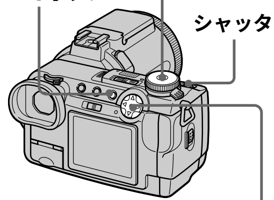
モードダイヤル：

一度のシャッターボタンで16コマの画像を連写します。スポーツのフォームチェックなどに適しています。



操作の前に

SET UPの［動画選択］を［マルチ連写］にしておきます（4、74ページ）。



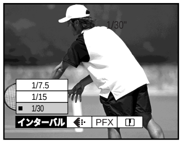
1 モードダイヤルを「[icon]」にする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀で［[icon]］（インターバル）、▲/▼で希望のコマ間のインターバルを選ぶ

コマ間のインターバルはメニュー画面の設定項目から選べます。



4 撮影する

16コマの画像を1枚の画像（画像サイズ1280×960）として記録します。

撮影した画像を削除する

このモードでは希望のコマのみを削除することができません。
削除を選び実行すると16コマすべてが削除されます。

1. モードダイヤルを「▶」にする
2. MENUボタンを押し、メニューから［削除］を選び中央の●を押す
3. ［実行］を選び、中央の●を押す
   すべてのコマが削除されます。

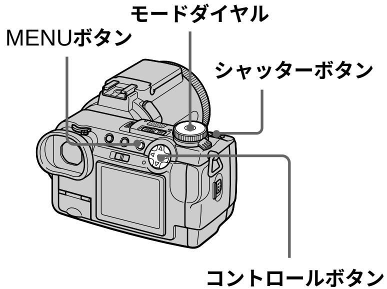
- フラッシュは使えません。
- マルチ連写で撮った画像を本機で再生すると16コマの画像が一定の間隔で順番に再生されます。
- パソコンで再生すると撮影された16コマが1枚の画像として同時に表示されます。
- マルチ連写機能のないカメラで再生した場合、パソコンと同様に16分割された画像で表示されます。
- 日付・時刻は挿入されません。
- マルチ連写の撮影枚数は69ページをご覧ください。

3枚連写する

– 3枚連写

モードダイヤル：[icon]/[icon]P/S/A/M/SCN

連続撮影するときに使います。シャッターボタンを押すと、3枚連続して撮影されます。



1 モードダイヤルを「[icon]」、「[icon]P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［MODE］（撮影モード）、▲/▼で［3枚連写］を選ぶ

4 撮影する

「記録中」という表示が消えると、次の撮影ができます。

通常撮影に戻すには

手順3で［通常撮影］を選んでください。

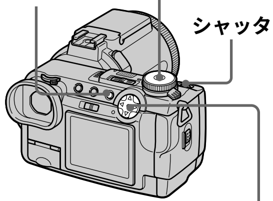
- フラッシュは使えません。
- 連写中は画面に画像が出ません。シャッターボタンを押す前に構図を決めておいてください。
- 撮影の間隔は約0.5秒です。
- 3枚連写をするときは、1/25秒またはそれよりも遅いシャッタースピードは選べません。

画像を圧縮せずに撮る

ー TIFFモード

モードダイヤル：📷/📷P/S/A/M/SCN

画像データを圧縮せずに撮影するため、画質の劣化がほとんどありません。写真画質でのプリント時などに適しています。JPEG（圧縮）モードの画像も同時に記録します。



1 モードダイヤルを「📷」、「📷P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［MODE］（撮影モード）、▼で［TIFF］を選ぶ

4 撮影する

「記録中」という表示が消えると、次の撮影ができます。

通常撮影に戻すには

手順3で［通常撮影］を選んでください。

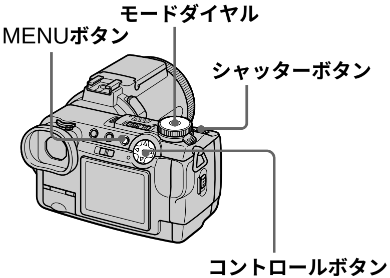
- JPEG画像は、**別冊基本編** ➡ 17ページで選ばれている画像サイズで記録されます。TIFF画像は［2560（3:2）］を選んでいるとき以外は［2560×1920］で記録されます。
- データの書き込みに通常撮影よりも時間がかかります。
- TIFFモードの撮影枚数は68ページをご覧ください。

Eメール添付用の画像を撮る

ー Eメール

モードダイヤル：📷/📷P/S/A/M/SCN

Eメール添付に適した、小さいサイズ（320×240）の画像を撮影します。**別冊基本編 ➡** 17ページで選択したサイズの静止画も同時に記録されます。



1 モードダイヤルを「📷」、「📷P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［MODE］（撮影モード）、▲/▼で［Eメール］を選ぶ

4 撮影する

「記録中」という表示が消えると、次の撮影ができます。

通常撮影に戻すには

手順3で［通常撮影］を選んでください。

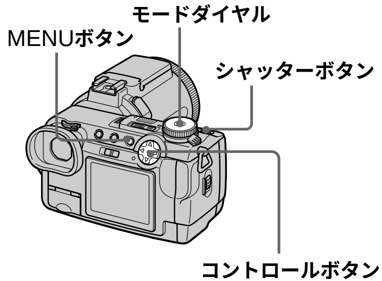
- 撮影した画像をEメールソフトウェアに添付する方法については、お使いのソフトウェアのヘルプをご覧ください。
- Eメールモードの撮影枚数は68ページをご覧ください。

画像に音声を記録する

ー ボイスメモ

モードダイヤル：📷/📷P/S/A/M/SCN

静止画の撮影時に、音声もいっしょに記録します。



1 モードダイヤルを「📷」、「📷P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［MODE］（撮影モード）、▲/▼で［ボイスメモ］を選ぶ

4 撮影する

「記録中」という表示が消えると、次の撮影ができます。

シャッターボタンをポンと1回押すと

5秒間音声が記録されます。

シャッターボタンを押し続けると

押し続けている間、音声が記録されます（最長40秒間）。

通常撮影に戻すには

手順3で［通常撮影］を選んでください。

- ボイスメモで撮影した画像を見るには、「画面で動画を見る」（38ページ）と同じ操作をおこなってください。
- ボイスメモの撮影枚数は68ページをご覧ください。

画像に特殊効果を加えて撮る

ー ピクチャーエフェクト

モードダイヤル： P/S/A/M/SCN/

画像に特殊効果を加え、メリハリをつけることができます。

ソラリ



明暗をはっきりさせたイラストのように

セピア

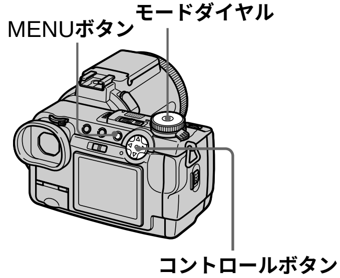


古い写真のような色合いに

ネガアート



写真のネガフィルムのように



1 モードダイヤルを「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」、「」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［PFX］（P.エフェクト）、▲/▼で希望のモードを選ぶ

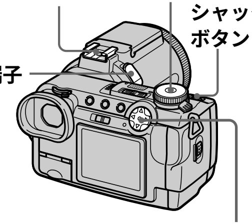
ピクチャーエフェクトを解除するには

手順3で［切］を選んでください。

外部フラッシュを使う

モードダイヤル：📷/📷P/S/A/M/SCN/🎞

- 3枚連写、ブラケット、夜景モード、動画（MPEGムービー）、マルチ連写ではフラッシュは発光しません。
- 外付けフラッシュを取り付けていると、重みでレンズ部が固定できません。左手でレンズ部をささえて撮るか、三脚のご使用をおすすめします。
- 外付けフラッシュと本機の内蔵フラッシュは同時には発光しません。



ソニー製専用フラッシュHVL-F1000を使う

本機のホットシューには、ソニー製の専用フラッシュHVL-F1000を取り付けて使用することができます。外付けフラッシュを使うと、より鮮明なフラッシュ撮影をすることができます。

1 ホットシューに専用外付けフラッシュHVL-F1000を取り付ける

2 ACC端子にフラッシュのプラグを差し込む

3 HVL-F1000の電源を入れる

4 モードダイヤルを「📷」、「📷P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」、「🎞（クリップモーション）」のいずれかにする

5 撮影する

このとき、内蔵フラッシュは発光しません。

- ソニー製の専用の外付けフラッシュを使用するときは、SET UPの［ホットシュー］を［切］にしてください。

市販のフラッシュを使う

本機のホットシューには、市販の外付けフラッシュを取り付けることもできます。

1 ホットシューに外付けフラッシュを取り付ける

2 モードダイヤルを「SET UP」にする

3 ▲/▼で［📷2］（カメラ2）、▶/▲/▼で［ホットシュー］、▶/▲で［入］を選び、中央の●を押す

4 市販の外付けフラッシュの電源を入れる

詳しくは、お使いのフラッシュに付属の取扱説明書をご覧ください。

5 モードダイヤルを「M」または「A」にする

モードダイヤルが「📷」、「📷P」、「S」、「SCN」、「🎞（クリップモーション）」でもフラッシュは発光しますが、「M」または「A」での撮影をおすすめします。

6 撮影する

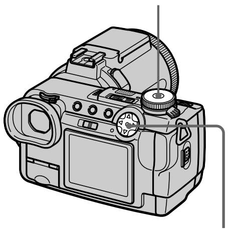
- 絞り数値は、ご使用のフラッシュのガイドナンバーと被写体との距離から最も適した値を設定してください。
- フラッシュのガイドナンバーは、カメラのISO感度（71ページ）で変わります。ISO感度をご確認ください。
- 他社の特定のカメラ専用とされているフラッシュ（一般にホットシューに複数の接点を持つフラッシュ）、高圧タイプのフラッシュ、およびフラッシュ用の付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しなかったり、故障の原因となることがありますのでご注意ください。
- SET UPの［ホットシュー］を［切］のまま撮影すると、内蔵フラッシュが持ち上がることがあります。そのときは、内蔵フラッシュを元に戻してください。お使いの外付けフラッシュによっては1度取りはずしてからおこなってください。

フォルダを指定する

モードダイヤル：SET UP

本機は“ メモリースティック ”の中に複数のフォルダを作成することができます。
複数のフォルダを作成しておくと、再生時に画像が見つけやすくなります。
お買い上げ時は「101MSDCF」フォルダが記録フォルダとして設定されています。最高で「999MSDCF」まで作成することができます。

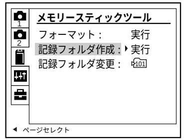
- 1つのフォルダに記録できるのは最大4000枚です。フォルダの容量がいっぱいになると、自動的に新しいフォルダが作成されます。
- 一度作成したフォルダを削除することはできません。



新しいフォルダを作る

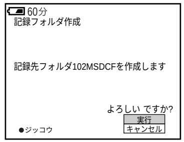
1 モードダイヤルを「SET UP」にする

2 ▲/▼で[ ]（メモリースティックツール）を選び、▶/▲/▼で［記録フォルダ作成］を選ぶ



3 ▶/▲で［実行］を選び、中央の●を押す

4 ▲で［実行］を選び、中央の●を押す



最大番号+1のフォルダが作成されます。

記録先のフォルダを変更する

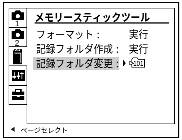
フォルダ作成を中止するには

手順3か4で［キャンセル］を選びます。

- 別のフォルダが作成／選択されるまで、撮影した画像は新しく作成されたフォルダに記録されます。

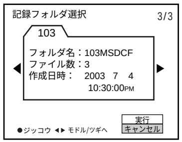
1 モードダイヤルを「SET UP」にする

2 ▲/▼で[メモリースティックツール]（メモリースティックツール）を選び、▶/▼で［記録フォルダ変更］を選ぶ



3 ▶/▲で［実行］を選び、中央の●を押す

記録フォルダ選択画面が表示されます 。



4 ◀/▶で希望のフォルダを選ぶ。▲で［実行］を選び、中央の●を押す

記録フォルダの変更を中止するには

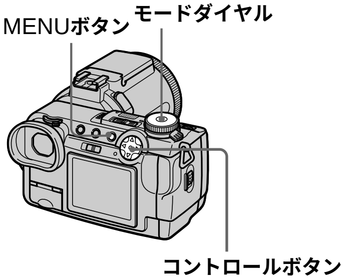
手順3か4で［キャンセル］を選びます。

- フォルダ作成機能がないカメラで撮影した画像は「100MSDCF」フォルダに保存されます。本機では「100MSDCF」を記録フォルダとして選択できません。

再生フォルダを選択する

モードダイヤル：▶

再生したいフォルダを設定します。



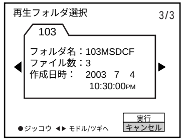
1 モードダイヤルを「▶」にする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀で［フォルダ］を選び、中央の●を押す

4 ◀/▶で再生したいフォルダを表示する



5 ▲で［実行］を選び、中央の●を押す

再生フォルダの選択を中止するには

手順4または手順5で［キャンセル］を選びます。

"メモリースティック"に複数のフォルダがあるときは

フォルダの中の1枚目／最後の画像に下記のマークが表示されます（85ページ）。

- ：前のフォルダに移動できます。
- ：次のフォルダに移動できます。
- ：前のフォルダにも、次のフォルダにも移動できます。

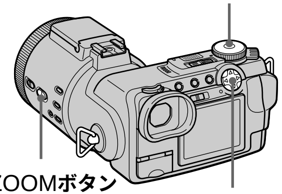
- インデックス（3枚／9枚）画面のときにも操作できます。
- SET UPの［記録フォルダ変更］でも、再生フォルダを選択することができます（27ページ）。
- フォルダ内に画像がないときは、「このフォルダにはファイルがありません」と表示されます。

静止画の一部を拡大する

画像を拡大する – 再生ズーム

モードダイヤル：▶

撮影した画像を元の画像の5倍まで拡大することができます。また、拡大した画像を新しいファイルとして記録することができます。



1 モードダイヤルを「▶」にする

2 拡大したい画像を表示する

3 ZOOM Tボタンを押して、画像を拡大する

4 ▲/▼/◀/▶で拡大したい部分を選ぶ

▲を押す

◀を押す



▶を押す

▼を押す

▲：画像の上側を見るとき
▼：画像の下側を見るとき
◀：画像の左側を見るとき
▶：画像の右側を見るとき

5 ZOOM W/Tボタンで画像の大きさを調節する



拡大表示をやめるには

中央の●を押してください。

- 動画（MPEGムービー）／クリップモーション／マルチ連写で撮影した画像は再生ズームできません。
- クイックレビュー（**別冊基本編** → 19ページ）で表示した画像も、手順3から5の操作で拡大することができます。
- マニュアルフォーカス／ズームリングで操作することはできません。

拡大した画像を記録する
ー トリミング

1 再生ズーム後にMENUボタンを押す

2 ▶で［トリミング］を選び、中央の●を押す

3 ▲/▼で画像サイズを選び、中央の●を押す

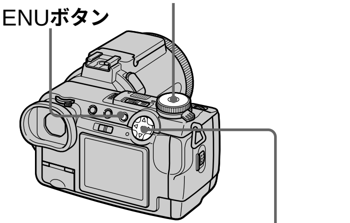
画面の右上に記録先のフォルダが表示されます。画像が記録され、拡大前の画像表示に戻ります。

- トリミングした画像は選択している記録フォルダに一番新しいファイルとして記録されます。元の画像は残ります。
- トリミングした画像は画質が劣化する場合があります。
- 3:2の画像サイズにトリミングすることはできません。
- 非圧縮画像（TIFF画像）はトリミングできません。
- クイックレビューで表示した画像はトリミングできません。

連続して再生する
ー スライドショー

モードダイヤル：▶

撮影した画像を順番に再生します。画像のチェックやプレゼンテーションなどに便利です。



1 モードダイヤルを「▶」にする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［スライドショー］を選び、中央の●を押す

▲/▼/◀/▶で下記の設定を選んでください。

間隔設定
3秒／5秒／10秒／30秒／1分

再生画像
フォルダ内：選択しているフォルダ内の画像が再生されます。
全て：“メモリースティック”内のすべての画像が再生されます。

繰り返し
入：繰り返し再生されます。
切：すべての画像が再生されると、スライドショーは終了します。

4 ▼/▶で［スタート］を選び、中央の●を押す

スライドショーが始まります。

スライドショーの設定を中止するには

手順3で［キャンセル］を選びます。

スライドショーの再生を中止するには

中央の●を押して、▶で［終了］を選び、●を押してください。

スライドショー再生中に画面を送る／戻すには

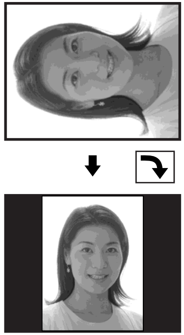
▶（送り）または◀（戻し）を押してください。
［再生画像］で［フォルダ内］を選んだときは、選択しているフォルダ内の画像のみ、送る／戻すことができます。

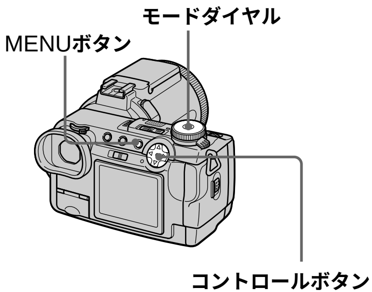
- ［間隔設定］の設定時間は目安です。再生画像のサイズなどにより、変わることがあります。

静止画を回転する

モードダイヤル：▶

カメラを縦にして撮影した画像を、回転して上書きすることができます。





1 モードダイヤルを「▶」にして、回転させたい画像を表示する

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［回転］を選び、中央の●を押す

4 ▲で［↶ ↷］を選び、◀/▶で画像を回転させる

5 ▲/▼で［実行］を選び、中央の●を押す

回転した画像が上書きされます。

回転を中止するには

手順4で［キャンセル］選び、中央の●を押してください。

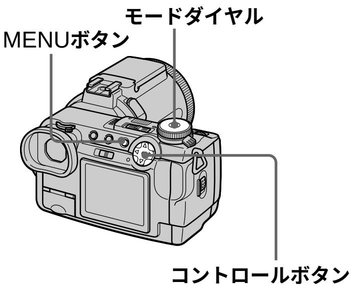
- プロテクトされている画像／動画（MPEGムービー）／クリップモーション／マルチ連写で撮影した画像は回転できません。
- 他機で撮影した画像は本機では回転できないことがあります。
- パソコンで画像を見るとき、ソフトウェアによっては画像の回転情報が反映されない場合があります。

画像を保護する

ー プロテクト

モードダイヤル：▶

大切な画像を誤って消さないように保護します。“ メモリースティック ”の画像は、プロテクトされていてもフォーマット（**別冊基本編** ➡38ページ）すると消去されます。



シングル画面のとき

1 **モードダイヤルを「▶」にする**

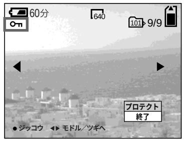
2 **◀/▶でプロテクトをかけたい画像を表示する**

3 MENU**ボタンを押す**

メニューが表示されます。

4 **◀/▶で［プロテクト］を選び、中央の●を押す**

表示されている画像にプロテクトがかかり、⊶（プロテクト）マークがつきます。



5 **他の画像もプロテクトするときは、◀/▶で画像を表示し、▲で［プロテクト］を選び、中央の●を押す**

プロテクト指定を解除するには

手順**4**または手順**5**でもう1度中央の●を押してください。⊶マークが消えます。

インデックス（9枚表示）画面のとき

1 **モードダイヤルを「▶」にして、⊞ボタンを押してインデックス（9枚表示）画面にする**

2 MENU**ボタンを押す**

メニューが表示されます。

3 **◀/▶で［プロテクト］を選び、中央の●を押す**

4 **◀/▶で［選択］を選び、中央の●を押す**

5 **プロテクトしたい画像を▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押す**

選んだ画像に緑色の⊶マークがつきます。



6 他の画像もプロテクトするときは、手順5を繰り返す

7 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

8 ▶で［実行］を選び、中央の●を押す

マークが白色に変わり、選択した画像にプロテクトがかかります。

プロテクトを中止するには

手順4で［キャンセル］を、または手順8で［終了］を選び、中央の●を押してください。

プロテクト指定を解除するには

手順5でプロテクトを解除したい画像を▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押してください。マークが灰色に変わります。プロテクトを解除したいすべての画像について繰り返します。次にMENUボタンを押し、［実行］を選び、中央の●を押してください。

フォルダ内のすべての画像をプロテクトするには

手順4で［フォルダ内全て］を選び、中央の●を押します。次に［入］を選び、中央の●を押してください。

フォルダ内のすべての画像のプロテクト指定を解除するには

手順4で［フォルダ内全て］を選び、中央の●を押します。次に［切］を選び、中央の●を押してください。

インデックス（3枚表示）画面のとき

1 モードダイヤルを「▶」にして、ボタンを2回押して、インデックス（3枚表示）画面にする

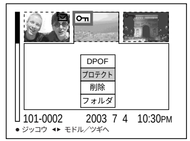
2 ◀/▶でプロテクトをかけたい画像を中央に表示する

3 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

4 ▲/▼で［プロテクト］を選び、中央の●を押す

画面中央の画像にプロテクトがかかり、（プロテクト）マークがつきます。



5 他の画像もプロテクトするときは、◀/▶でプロテクトをかけたい画像を中央に表示し、手順4を繰り返す

静止画を編集する

プロテクト指定を解除するには

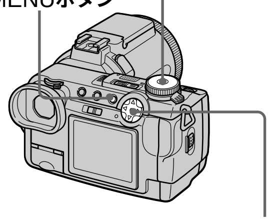
手順4でプロテクトを解除したい画像を選び、中央の●を押します。プロテクトを解除したいすべての画像について繰り返してください。

画像のサイズを変える

ー リサイズ

モードダイヤル：▶

撮影した画像のサイズを変えて、新しいファイルとして記録できます。
下記のサイズに変えられます。
2560×1920、2048×1536、1280×960、640×480
リサイズした後も元の画像はそのまま残ります。



1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶でサイズを変えたい画像を表示する

3 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

4 ◀/▶で［リサイズ］を選び、中央の●を押す

5 ▲/▼で変更したいサイズを選び、中央の●を押す

画面の右上に記録先のフォルダが表示されます。

リサイズを中止するには

手順5で［キャンセル］を選んでください。

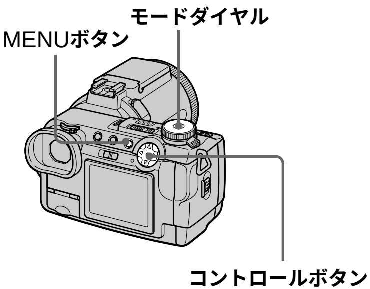
- リサイズした画像は選択している記録フォルダに一番新しいファイルとして記録されます。元の画像は残ります。
- 動画（MPEGムービー）／クリップモーション／マルチ連写／非圧縮画像（TIFF画像）で撮影した画像はリサイズできません。
- 小さいサイズから大きいサイズにリサイズすると、画像が劣化します。
- 3:2の画像サイズにリサイズすることはできません。
- 3:2の画像をリサイズすると、画像の上下に黒い帯が入ります。

プリントを予約する

ー プリント予約マーク

モードダイヤル：▶

プリントしたい画像をあらかじめ本機で予約することができます。DPOF（Digital Print Order Format）規格に対応しているお店やプリンターで画像をプリントするときなどに便利な機能です。



- 動画（MPEGムービー）／クリップモーションで撮影した画像は マークはつけられません。
- Eメールモードのときは、同時に記録された通常サイズの画像に マークがつきます。
- マルチ連写で撮影した画像は16分割された1枚の画像として マークがつきます。
- TIFFモードで撮影した画像に マークを付けると、非圧縮画像のみプリントされ、同時に記録されたJPEG画像はプリントされません。

シングル画面のとき

1 モードダイヤルを「▶」にする

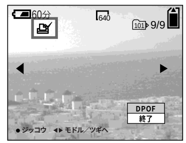
2 ◀/▶でプリント予約したい画像を表示する

3 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

4 ◀/▶で［DPOF］を選び、中央の●を押す

表示されている画像に マークがつきます。



5 他の画像もプリント予約するときは、◀/▶でプリント予約したい画像を表示し、▲で［DPOF］を選び、中央の●を押す

マークを消すには

手順4でもう一度中央の●を押してください。 マークが消えます。

インデックス（9枚表示）画面のとき

1 **モードダイヤルを「▶」にして、ボタンを押してインデックス（9枚表示）画面にする**

2 **MENUボタンを押す**
メニューが表示されます。

3 **▶で［DPOF］を選び、中央の●を押す**

4 **◀/▶で［選択］を選び、中央の●を押す**
- ［フォルダ内全て］を選ぶことはできません。

5 **プリント予約したい画像を▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押す**
選んだ画像に緑色の マークがつきます。



6 **他の画像もプリント予約するときは、手順5を繰り返す**

7 **MENUボタンを押す**
メニューが表示されます。

8 **▶で［実行］を選び、中央の●を押す**
マークが白色に変わり、設定が完了します。

マークを中止するには

手順4で［キャンセル］を、または手順8で［終了］を選んでください。

マークを消すには

手順5で マークを消したい画像を選び、中央の●を押してください。

フォルダ内のすべての画像の マークを消すには

手順4で［フォルダ内全て］を選び、中央の●を押します。次に［切］を選び、中央の●を押してください。

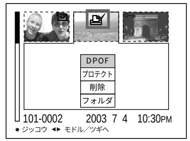
インデックス（3枚表示）画面のとき

1 **モードダイヤルを「▶」にして、ボタンを2回押して、インデックス（3枚表示）画面にする**

2 **◀/▶でプリント予約したい画像を中央に表示する**

3 **MENUボタンを押す**
メニューが表示されます。

4 **▲で［DPOF］を選び、中央の●を押す**
画面中央の画像に マークがつきます。



5 **他の画像もプリント予約するときは、◀/▶でプリント予約したい画像を中央に表示し、手順4を繰り返す**

マークを消すには

手順4でもう一度中央の●を押してください。 マークが消えます。

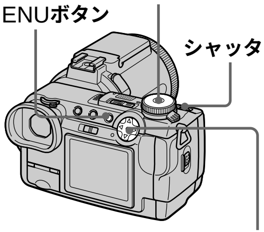
動画を撮る

モードダイヤル：

動画を撮影できます。

操作の前に

SET UPの［動画選択］を［MPEGムービー］にしておきます（4、74ページ）。



1 モードダイヤルを「」にする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

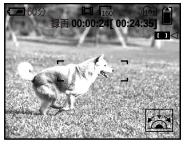
3 ◀で［］（画像サイズ）、▲/▼で希望のサイズを選ぶ

320 (HQX)、320×240、160×112から選べます。

各サイズによる記録時間については、69ページをご覧ください。

4 シャッターボタンを深く押し込む

「録画」と表示され、画像と音声の記録が始まります。



- “メモリースティック”の残量がなくなると停止します。

5 録画を止めるには、シャッターボタンをもう1度深く押し込む

撮影中の画面上の表示は

- 画像には記録されません。
- 表示される項目について詳しくは、84ページをご覧ください。
- ヒストグラムは表示されません。

近接（マクロ）撮影する

モードダイヤルを「」にしてから、**別冊基本編** ➡ 22ページの手順に従ってください。

セルフタイマーで撮影する

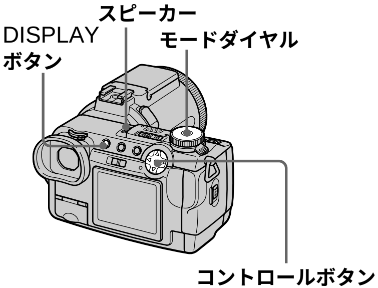
モードダイヤルを「」にしてから、**別冊基本編** ➡ 23ページの手順に従ってください。

- フラッシュは使えません。
- 日付・時刻は挿入されません。
- 動画（MPEGムービー）撮影時、マルチポイントAFを選ぶと画面中央部分を平均的に測距し、手ぶれに強いAFが可能です。測距枠選択（中央、左、右、下、上）は測距枠のみでAFを合わせるので狙った部分のピント合わせに便利です。

画面で動画を見る

モードダイヤル：▶

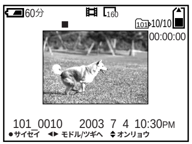
本機の画面で動画を見ることができます。音声も本機のスピーカーから聞こえます。



1 モードダイヤルを「▶」にする

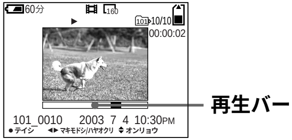
2 ◀/▶で見たい動画を選ぶ

動画は静止画よりもひとまわり小さく表示されます。



3 中央の●を押す

動画と音声が再生されます。
再生中は▶（再生）が画面に表示されます。



再生を止めるには

中央の●を押してください。

音量を調節するには

▲/▼を押してください。

巻き戻し／早送りをするには

再生中に◀/▶を押します。
通常の再生に戻るには、中央の●を押してください。

高画質撮影した動画は

画像サイズ［320（HQX）］で撮影した動画は画面いっぱいに表示されます。

動画再生中の画面上の表示は

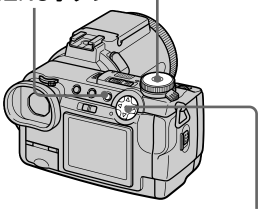
- DISPLAYボタンを押すたびに、画面表示オフ→画面表示オンの順で変わります。
- 表示される項目について詳しくは、85ページをご覧ください。
- ヒストグラムは表示されません。

- 動画をテレビで見る方法は、静止画と同じです（**別冊基本編** ➡ 33ページ）。

動画を削除する

モードダイヤル：▶

不要な動画を削除します。



シングル画面のとき

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶で削除したい画像を表示する

3 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

4 ◀/▶で［削除］を選び、中央の●を押す

この時点ではまだ削除されていません。

5 ▲で［実行］を選び、中央の●を押す

「アクセス中」と表示されます。表示が消えると、画像が削除されます。

6 他の画像も削除するときは、◀/▶で削除したい画像を表示し、中央の●を押す。
▲で［実行］を選び、中央の●を押す

削除を中止するには

手順5または手順6で［終了］を選び、中央の●を押してください。

インデックス（9枚表示）画面のとき

1 モードダイヤルを「▶」にして、⊞ボタンを押してインデックス（9枚表示）画面にする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［削除］を選び、中央の●を押す

4 ◀/▶で［選択］を選び、中央の●を押す

5 削除したい画像を▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押す

選んだ画像に緑色の🗑マークがつきます。



この時点ではまだ削除されていません。

6 他の画像も削除するときは、手順5を繰り返す

動画を撮る

7 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

8 **▶で［実行］を選び、中央の●を押す**

「アクセス中」という表示が消えると、画像が削除されます。

削除を中止するには

手順**8**で［終了］を選んでください。

フォルダ内のすべての画像を削除するには

手順**4**で［フォルダ内全て］を選び、▶で［実行］を選び、中央の●を押します。削除を中止するときは、◀で［終了］を選び、中央の●を押してください。

インデックス（3枚表示）画面のとき

1 **モードダイヤルを「▶」にして、▦ボタンを2回押してインデックス（3枚表示）画面にする**

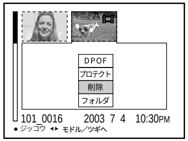
2 **◀/▶で削除したい画像を中央に表示する**

3 MENU**ボタンを押す**

メニューが表示されます。

4 **▲/▼で［削除］を選び、中央の●を押す**

この時点ではまだ削除されていません。



5 **▲で［実行］を選び、中央の●を押す**

「アクセス中」という表示が消えると、中央の画像が削除されます。

削除を中止するには

手順**5**で［終了］を選び、中央の●を押してください。

動画を編集する

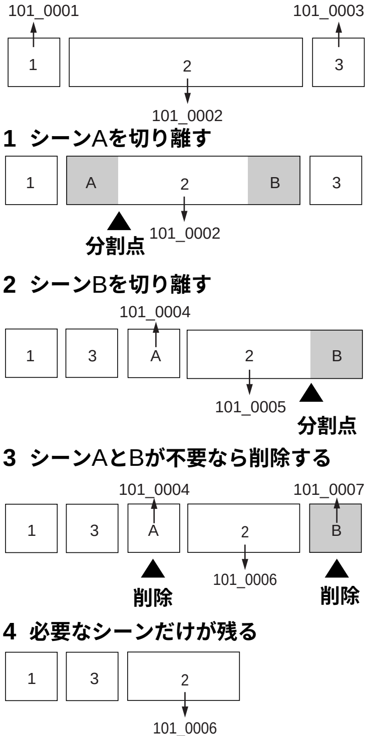
モードダイヤル：▶

撮影した動画（MPEGムービー）を分割したり、不要な部分を削除することができます。“ メモリースティック ”の容量が足りないときやEメールに添付するときに便利です。

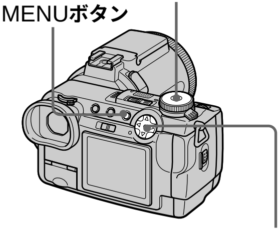
分割したときのファイル番号は右記のようになります

分割したファイルは、最新のファイルとして、それぞれ新しい番号が割り振られ、選択している記録フォルダに保存されます。分割する前の元のファイルは削除され、その番号は欠番になります。

〈例〉101_0002ファイルを分割した場合



動画を分割する



1 **モードダイヤルを「▶」にする**

2 **◀/▶で分割したい動画を表示する**

3 **MENUボタンを押す**

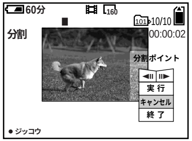
メニューが表示されます。

4 **▶で［分割］を選び、中央の●を押す。▲で［実行］を選び、中央の●を押す**

動画が再生されます。

5 分割する位置を決める

分割したい位置で、中央の●を押します。



分割する位置を微調整したいときは、[◀II/II▶]（コマ送り/コマ戻し）を選び、◀/▶で微調整します。
分割する場所を選びなおしたいときは、[キャンセル] を選びます。
動画の再生が再開します。

6 分割する位置を決めたら、▲/▼で [実行] を選び、中央の●を押す

7 ▲で [実行] を選び、中央の●を押す

動画ファイルが分割されます。
画面の右上に記録先フォルダが表示されます。

分割を中止するには

手順5で [終了] を選びます。再生画面に戻ります。

- 分割された画像は選択している記録フォルダに一番新しいファイルとして記録されます。
- 下記のファイルは分割できません。
  - クリップモーションのファイル
  - マルチ連写のファイル
  - 静止画ファイル
  - 分割できる充分な長さのない動画（MPEGムービー）
  - プロテクトされている動画（MPEGムービー）
- 一度分割したファイルを元に戻すことはできません。
- 分割すると、元のファイルは削除されます。

1 動画の不要な部分を分割する（前ページ）

2 削除したい部分の動画を表示する

3 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

4 ◀/▶で [削除] を選び、中央の●を押す

5 ▲で [実行] を選び、中央の●を押す

表示されている動画が削除されます。

「ImageMixer」をインストールする

「ImageMixer」はWindows、Macintosh（Mac OS Xを除く）ともに対応しています。

本機に付属のCD-ROMに入っているソフトウェア「PIXELA ImageMixer for Sony（ピクセライメージミキサーフォーソニー）」を使うと、本機で撮影した画像をお使いのパソコンで手軽に楽しめます。

- パソコンの動作環境について詳しくは、CD-ROMに付属の取扱説明書をご覧ください。
- パソコンを使用中の場合には、使用中のソフトウェアをすべて終了させてください。
- Windowsをお使いの方は「Image Transfer」（49ページ）で簡単にパソコンに画像を取り込むことができます。本機からパソコンへ画像のコピーのみおこなうという方に最適です。

ImageMixerに関するお問い合わせ
ピクセラユーザーサポートセンター
電話：072-224-0181
受付時間：月～日　午前9時～午後5時
（ただし、年末、年始、祝日を除く）
URL：http://www.ImageMixer.com

Windowsの場合

1 パソコンの電源を入れる

- Windows 2000をお使いの方は、Administrator（管理者権限）またはPower user（標準ユーザー権限）でログオンしてください。
- Windows XPをお使いの方は、パソコンの管理者権限でログオンしてください。

2 付属のCD-ROMを、パソコンのCD-ROMドライブにセットする

しばらくすると、タイトル画面が表示されます。



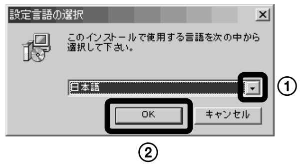
タイトル画面が表示されないときは、デスクトップ画面上の（マイコンピュータ）→（ImageMixer）の順にダブルクリックしてください。

3 タイトル画面の中の「PIXELA ImageMixer」の部分に（ポインタ）を動かし、クリックする



「設定言語の選択」画面が表示されます。

4 [▼] をクリックして「日本語」を選び、[OK] をクリックする



「PIXELA ImageMixer用のInstallShieldウィザードへようこそ」画面が表示されます。

5 画面の指示に従って操作する
インストール画面の［完了］をクリックしてインストール画面を閉じてください。
DirectXの「情報」画面が表示された場合は、画面の指示にしたがってインストールし、再起動してください。その後、手順7に進んでください。

6 (⏏)をクリックしてタイトル画面を閉じる

7 パソコンからCD-ROMを取り出す

Macintoshの場合

1 パソコンの電源を入れる。

2 付属のCD-ROMを、パソコンのCD-ROMドライブにセットする。
しばらくすると、タイトル画面が表示されます。

3 日本語をクリックする。

4 画面の指示に従って操作する。
インストール画面の［完了］をクリックしてインストール画面を閉じてください。

5 (⏏)をクリックしてタイトル画面を閉じる。

6 パソコンからCD-ROMを取り出す。

- 「ImageMixer」はMac OS Xには対応しておりません。

「ImageMixer」で画像を取り込む

「PIXELA ImageMixer for Sony」を使って、本機からパソコンに画像を取り込みます。

操作の前に

別冊基本編 ➡ 44～45ページの操作を行い、本機とパソコンを付属のUSBケーブルでつなぎ、本機を準備してください。

Windowsの場合

ここでは、「マイドキュメント」フォルダに画像をコピーします。

1 「ImageMixer」を起動する

デスクトップ画面上の（PIXELA ImageMixer Ver.1.0 for Sony）をダブルクリックします。
「ImageMixer」が起動し、メイン画面が表示されます。

2 をクリックする



画像を取り込むための画面が表示されます。

3 画像をパソコンに取り込む

① 画面左上のをクリックする。

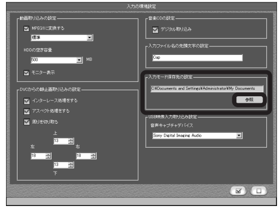
② 画面左上のをクリックする。
“メモリースティック”内の画像が一覧表示されます。



- “メモリースティック”内の静止画／動画が表示されます。

③ 画面右上のをクリックする。
「入力の環境設定」画面が表示されます。

④「入力モード保存先の設定」で［参照］をクリックし、表示される「フォルダの参照」画面で［マイドキュメント］をクリックして、［OK］をクリックする。



⑤ をクリックする。

⑥ 画面右上のをクリックする。

⑦ パソコンに取り込む画像をクリックし、画面右上のをクリックする。
画像がパソコンに取り込まれます。

- 画像をにドラッグ＆ドロップすることもできます。

静止画／動画を楽しむ

Macintoshの場合

1 「ImageMixer」を起動する。

2 をクリックする。

3 画像をパソコンに取り込む

① 画面左上のをクリックする。

② 画面左上のをクリックする。
“メモリースティック”内の画像が一覧表示されます。

③ 画面右上のをクリックする。
「入力の環境設定」画面が表示されます。

④「入力モード保存先の設定」で［参照］をクリックし、画像の保存先を選び、［選択］をクリックする。

⑤ をクリックする。

⑥ 画面右上のをクリックする。

⑦ パソコンに取り込む画像をクリックし、画面右上のをクリックする。
画像がパソコンに取り込まれます。

- 画像をにドラッグ＆ドロップすることもできます。

「ImageMixer」の使いかたについて詳しくは、ハードディスク→PIXELA ImageMixer→manual→index.htmlの順にダブルクリックして、ヘルプをご覧ください。

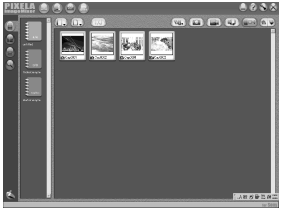
「ImageMixer」で画像を見る

44ページでパソコンに取り込んだ画像を「PIXELA ImageMixer for Sony」を使って見ます。

- 「ImageMixer」を使うと、取り込んだ画像を編集することもできます。詳しくは、画面右上の ? をクリックして、ヘルプをご覧ください。

Windowsの場合

1 をクリックする



画像を見るための画面が表示されます。

2 表示したい画像をダブルクリックする



選んだ画像が表示されます。
動画を再生するには 、再生を止めるには をクリックします。

前の画面に戻るには

画面右上の をクリックします。

Macintoshの場合

1 をクリックする。

2 表示したい画像をダブルクリックする。
選んだ画像が表示されます。

前の画面に戻るには

画面右上の をクリックします。

「ImageMixer」で画像を印刷する

「PIXELA ImageMixer for Sony」で開いた画像をプリンタで印刷します。
あらかじめプリンタとパソコンを接続し、両方の機器の電源を入れておきます。
プリンタの接続や設定などについて詳しくは、プリンタに付属の取扱説明書をご覧ください。

- 動画の場合は先頭のシーンが印刷の対象となります。

Windowsの場合

1 画像を表示する

47ページの手順1の操作を行ってください。

2 印刷したい画像をクリックする

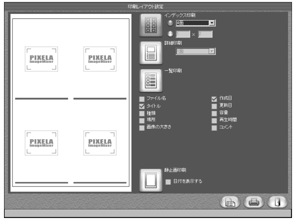


3 をクリックして表示されるメニューから［印刷］をクリックする

「印刷レイアウト設定」画面が表示されます。

4 レイアウトを設定する

お好みに応じて設定してください。

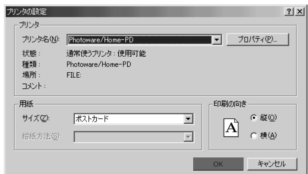


通常は画面下の をクリックします。

5 用紙の設定をする

① をクリックする。
「プリンタの設定」画面が表示されます。

② 用紙のサイズや印刷の向きを設定し、［OK］をクリックする。



6 印刷する

① をクリックする。
「印刷」画面が表示されます。

② ［OK］をクリックする。



画像が印刷されます。

印刷できないときは

プリンタの接続や設定が正しいかどうか確認してください。詳しくは、お使いのプリンタに付属の取扱説明書をご覧ください。

Macintoshの場合

1 画像を表示する。

2 印刷したい画像をクリックする。

3 をクリックして表示されるメニューから［印刷］をクリックする。
「印刷レイアウト設定」画面が表示されます。

4 レイアウトを設定する。
通常は画面下の をクリックします。

5 をクリックする。
「プリンタの設定」画面が表示されます。

6 用紙のサイズや印刷の向きを設定し、［OK］をクリックする。

7 をクリックする。
「印刷」画面が表示されます。

8［プリント］をクリックする。
画像が印刷されます。

「Image Transfer」をインストールする

「Image Transfer」はWindowsのみに対応しています。
本機に付属のCD-ROMに入っているソフトウェア「ImageTransfer」（イメージトランスファー）を使うと、本機で撮影した画像をお使いのパソコンに簡単に取り込むことができます。

- パソコンを使用中の場合には、使用中のソフトウェアをすべて終了させてください。
- 「Image Transfer」をお使いになるためには、USBドライバーが必要です。お使いのパソコンに必要なドライバーがインストールされていないときは、ドライバーのインストールをうながす画面が表示されます。このときは、画面の指示に従って操作してください（**別冊基本編** ➡ 41ページ）。

1 パソコンの電源を入れる

- Windows 2000をお使いの方は、Administrator（管理者権限）またはPower user（標準ユーザー権限）でログオンしてください。
- Windows XPをお使いの方は、パソコンの管理者権限でログオンしてください。

2 付属のCD-ROMを、パソコンのCD-ROMドライブにセットする
しばらくすると、タイトル画面が表示されます。



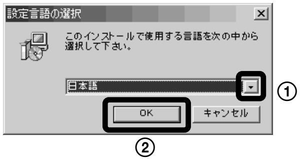
タイトル画面が表示されないときは、デスクトップ画面上の （マイコンピュータ）→ （ImageMixer）の順にダブルクリックしてください。

3 タイトル画面の中の「Image Transfer」の部分に↖（ポインタ）を動かし、クリックする



「設定言語の選択」画面が表示されます。

4 [▼] をクリックして「日本語」を選び、[OK] をクリックする

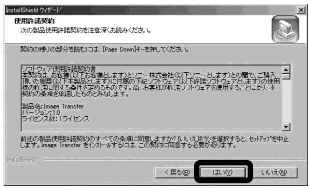


「Image Transfer用のInstallShieldウィザードへようこそ」画面が表示されます。

5 [次へ] をクリックする

「使用許諾契約」画面が表示されたら、[はい] をクリックする。
ソフトウェア使用許諾契約書の内容をよくご確認ください。同意された場合は、インストールの手順に進みます。「情報」画面が表示されます。





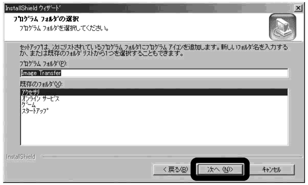
6 [次へ] をクリックする

「Image Transfer」のインストールが始まります。



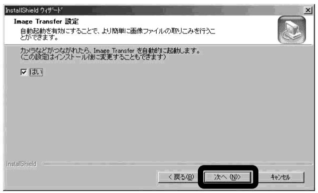
7 「インストール先の選択」画面でインストールするフォルダを選び、[次へ] をクリックする。「プログラムフォルダの選択」画面でプログラムフォルダを選び、[次へ] をクリックする





8 **「カメラなどがつながれたらImage Transferを自動的に起動します。」の「はい」がチェックされているのを確認し、［次へ］をクリックする**

インストールが終わると、「InstallShieldウィザードの完了」画面が表示されます。

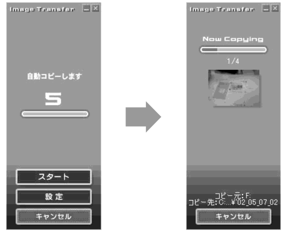


9 **［完了］をクリックする**

インストール画面が閉じます。



「Image Transfer」で画像をコピーする



- 初期設定では「マイドキュメント」フォルダ内に「Image Transfer」、「日付」フォルダが作成され、その中に画像ファイルがすべてコピーされます。
- 「Image Transfer」の設定は設定画面で変更できます（53ページ）。

別冊基本編 ➡ 44～45ページの操作を行い、本機とパソコンを付属のUSBケーブルでつないでください。

「Image Transfer」が自動起動し、“メモリースティック”内の画像がコピーされます。コピーが完了すると「ImageMixer」（46ページ）が自動起動し、画像一覧が表示されます。

- Window XPをお使いの場合は、右の設定をおこなってください。
- 「Image Transfer」が自動起動しない場合は、タスクトレイの「Image Transfer」のアイコンをダブルクリックして起動してください。

Windows XPの場合

Windows XPでは、OS側の自動再生ウィザードが起動するように設定されています。以下の手順で設定を解除してください。

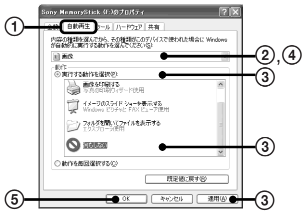
* 2回目以降、画像を取り込むときは不要です。

1 本機とパソコンを付属のUSBケーブルで接続する（**別冊基本編 ➡** 45ページ）

2 ［スタート］→［マイコンピュータ］をクリックする

3 ［Sony MemoryStick］を右クリックし、［プロパティ］をクリックする

4 設定を解除する



① ［自動再生］をクリックする

② 「内容の種類」を［画像］にする

③ 「動作」の［実行する動作を選択］をチェックして［何もしない］を選び、［適用］をクリックする

④ 手順②で［ビデオファイル］と［混在したコンテンツ］を選び、手順③を繰り返す

⑤ ［OK］をクリックする
「プロパティ」画面が閉じます。

「Image Transfer」の設定を変更する

「Image Transfer」の設定を変更することができます。
タスクトレイの「Image Transfer」のアイコンを右クリックし［設定画面を開く］を選ぶ、または「Image Transfer」起動時に［設定］を選んでください。

ここを右クリック





「Image Transfer」起動時に［設定］を選んだ場合は、「基本の設定」のみ変更できます。

- 設定できるのは、「基本の設定」、「コピーの設定」、「削除の設定」です。
- 「標準の設定」に戻したいときは、［標準に戻す］をクリックしてください。

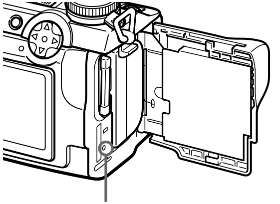
故障かな？と思ったら

困ったときは、下記の流れに従ってください。

1 54〜67ページの項目をチェックし、本機を点検する

画面に「C：□□：□□」のような表示が出たときは自己診断表示機能が働いています。67**ページをご覧ください。**

2 バッテリー／“メモリースティック”カバーの内側にあるRESETボタンを先の細いもので押してから、電源を入れる
（この操作を行うと、日時などの設定は解除されます）



RESET**ボタン**

3 デジタルイメージングカスタマーサポートのホームページを確認する
（**別冊基本編** ➞ 裏表紙）

4 テクニカルインフォメーションセンターに電話で問い合わせる（裏表紙）

バッテリー・電源

症状	原因	処置
バッテリーが充電できない。	• 本機の電源が入っている。	➔ 本機の電源を切る（**別冊基本編** ➞ 13ページ）。
本機にバッテリーを入れられない。	• 正しく入れていない。	➔ バッテリーの先端でバッテリー取りはずしつまみを上側に押しながら入れる（**別冊基本編** ➞ 9ページ）。
⚡/CHGランプが点滅する。	• バッテリーが正しく取り付けられていない。 • バッテリーが故障している。	➔ バッテリーを正しく取り付ける（**別冊基本編** ➞ 9ページ）。 ➔ テクニカルインフォメーションセンターに問い合わせる（裏表紙）。

症状	原因	処置
バッテリー充電中、⚡/CHGランプが点灯していない。	● ACパワーアダプターがはずれている。 ● バッテリーが正しく取り付けられていない。 ● 充電が完了している。	➔ きちんと接続し直す（**別冊基本編** ➡ 9ページ）。 ➔ バッテリーを正しく取り付ける（**別冊基本編** ➡ 9ページ）。 —
バッテリーの残量表示が正しくない。またはバッテリー残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる。	● 温度が極端に高いまたは低いところで長時間使用している。 ● バッテリーそのものの寿命（79ページ）。 ● バッテリーが消耗している。 ● 残量表示機能と実際の残量にズレが生じた。	— ➔ 新しいバッテリーと交換する。 ➔ 充電されたバッテリーを取り付ける（**別冊基本編** ➡ 9ページ）。 ➔ 満充電すると、残量表示機能が正しくなる（**別冊基本編** ➡ 10ページ）。
バッテリーの消耗が早い。	● 温度が極端に低いところで撮影／再生している。 ● 充電が不充分。 ● バッテリーそのものの寿命（79ページ）。	— ➔ 充電する（**別冊基本編** ➡ 9ページ）。 ➔ 新しいバッテリーと交換する。
電源が入らない。	● バッテリーが正しく取り付けられていない。 ● ACパワーアダプターがはずれている。	➔ バッテリーを正しく取り付ける（**別冊基本編** ➡ 9ページ）。 ➔ きちんと接続し直す（**別冊基本編** ➡ 12ページ）。
電源が途中で切れる。	● 操作しない状態が3分以上続くと、バッテリーの消耗を防ぐため、自動的に電源が切れる（**別冊基本編** ➡ 13ページ）。 ● バッテリーが消耗している。	➔ 電源を入れ直す（**別冊基本編** ➡ 13ページ）。 ➔ 充電されたバッテリーを取り付ける（**別冊基本編** ➡ 9ページ）。

静止画／動画を撮る

症状	原因	処置
電源を入れても画面がつかない。	• FINDER/LCDスイッチが「FINDER」になっている。	→「LCD」にする（**別冊基本編** → 20ページ）。
画面に被写体が写らない。	• モードダイヤルが「▶」または「SET UP」になっている。	→ モードダイヤルを「📷」または「📷P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」、「🎞」にする（**別冊基本編** → 18ページ、本書37ページ）。
フォーカスが合わない。	• 被写体が近すぎる。 • 静止画撮影時、シーンセレクションが風景モードになっている。 • 手動ピント合わせになっている。 • SET UPの［コンバージョンレンズ］が［入］になっている。	→ マクロ撮影モードにする。マクロ撮影モードをお使いの場合でも、最短撮影距離よりもカメラを離して撮影してください（**別冊基本編** → 22ページ）。 → 解除する（**別冊基本編** → 27ページ）。 → FOCUSスイッチを「AUTO/ZOOM」にする（10ページ）。 →［切］にする（4、74ページ）。
ズームできない。	• SET UPの［コンバージョンレンズ］が［入］になっている。 • FOCUSスイッチが「MANUAL」になっている。	→［切］にする（4、74ページ）。 →「AUTO/ZOOM」にする（**別冊基本編** → 21ページ）。
デジタルズームができない。	• 動画（MPEGムービー）撮影中はできない。 • SET UPの［デジタルズーム］が［切］になっている。	— →［入］にする（4、74ページ）。
画像が暗い。	• 逆光になっている。 • 画面が暗い。	→ 露出を補正する（11ページ）。 → 画面の明るさを調節する（4、76ページ）。

症状	原因	処置
画像が明るい。	● 舞台撮影など、暗いところでスポットライトが当たっている状態で撮影している。 ● 画面が明るい。	→ 露出を補正する(11ページ)。 → 画面の明るさを調節する(4、76ページ)。
明るい被写体を写すと、縦に尾を引いたような画像になる。	● スミアという現象。	→ 故障ではない。
撮影できない。	●"メモリースティック"が入っていない。 ●"メモリースティック"の容量がない。 ●"メモリースティック"の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。 ● フラッシュ充電中は撮影できない。 ● モードダイヤルが「SET UP」または「▶」になっている。	→"メモリースティック"を入れる(**別冊基本編** ➡ 16ページ)。 →"メモリースティック"内の画像を削除する(**別冊基本編** ➡ 34ページ、本書39ページ)、またはフォーマットをする(**別冊基本編** ➡ 38ページ)。 → 解除する(78ページ)。 — → モードダイヤルを「SET UP」、「▶」以外にする。
撮影で長時間かかる。	● NRスローシャッターが設定されている。	→ 1/25秒より速いシャッタースピードに設定する(6ページ)。
NIGHTSHOT/NIGHTFRAMING**スイッチを切り換えたときに音がする。**	● レンズ動作の音です。	—
画像の色が正しくない。	●「NIGHTSHOT」または「NIGHTFRAMING」になっている。	→ 解除する。
NIGHTFRAMING**時にシャッターを軽く押したとき、レンズ内部で音がする。**	● AE/AF動作中の音です。	→ 故障ではない。

症状	原因	処置
NIGHTSHOTまたはNIGHTFRAMINGができない。	• モードダイヤルが「S」、「A」、「M」、「SCN」になっている。	→ 「📷」または「📷P」、「🎞」（NIGHTFRAMING時はクリップモーションのみ）にする（17ページ）。
内蔵および別売り専用（HVL-F1000）フラッシュ撮影ができない。	• モードダイヤルが「▶」、「SET UP」、「🎞」（MPEGムービー、マルチ連写）になっている。	→ モードダイヤルを「▶」、「SET UP」、「🎞」（MPEGムービー、マルチ連写）以外にする。
	• 設定が⚡︎（発光禁止）になっている。	→ オート（表示なし）または⚡（強制発光）にする（**別冊基本編** ➡ 24ページ）。
	• 静止画撮影時、［シーンセレクション］が［夜景モード］になっている。	→ 解除する（**別冊基本編** ➡ 27ページ）。
	• 静止画撮影時、［シーンセレクション］が［風景モード］になっている。	→ ⚡（強制発光）にする（**別冊基本編** ➡ 24ページ）。
	• ［MODE］（撮影モード）が［3枚連写］または［ブラケット］になっている。	→ それ以外の設定にする。
	• SET UPの［ホットシュー］が［入］になっている。	→ ［切］にする（4、75ページ）。
	• 「NIGHTSHOT」になっている。	→ 「●」または「NIGHTFRAMING」にする。
マクロ撮影ができない。	• ［シーンセレクション］が［風景モード］になっている。	→ 解除する（**別冊基本編** ➡ 27ページ）。
	• SET UPの［コンバージョンレンズ］が［入］になっている。	→ ［切］にする（4、74ページ）。
被写体の目が赤く写る。	—	→ 赤目軽減モードにする（**別冊基本編** ➡ 24ページ）。
正しい撮影日時が記録されない。	• 日付・時刻が合っていない。	→ 日付・時刻を合わせる（**別冊基本編** ➡ 14ページ）。

画像を見る

症状	原因	処置
再生できない。	● モードダイヤルが「▶」になっていない。 ● パソコンのハードディスクにコピーしたファイルで名前を変更したり、画像を加工したものは本機で再生できない。	→ モードダイヤルを「▶」にする（**別冊基本編** ➡ 31ページ）。 —
表示直後に再生画像が粗い。	—	→ 故障ではない。
テレビに画像が出ない。	● SET UPの［ビデオ出力信号］が［PAL］になっている。 ● 接続が正しくない。	→ ［NTSC］にする（4、76ページ）。 → 接続を確認する（**別冊基本編** ➡ 33ページ）。
パソコンで再生できない。	—	→ 61ページをご覧ください。
動画再生中、ピロピロという音がする。	● 動画撮影中にオートフォーカスが働いている音。	→ 故障ではない。マニュアルフォーカスにする（10ページ）。
ノイズが入る。	● テレビなど強い磁気を帯びたものの近くに置いている。	→ テレビなどから離して置く。

画像を削除する／編集する

症状	原因	処置
削除できない。	● 画像がプロテクトされている。 ● “メモリースティック”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	→ 画像のプロテクトを解除する（32ページ）。 → 誤消去防止スイッチを解除する（78ページ）。
誤って消してしまった。	● 一度削除したファイルは元に戻せない。	→ 画像にプロテクトをかけると、誤消去を防げます（32ページ）。
リサイズができない。	● 動画（MPEGムービー）／クリップモーション画像／マルチ連写画像／非圧縮画像はリサイズできない。	—
プリント予約マークをつけられない。	● 動画（MPEGムービー）／クリップモーション画像にはプリント予約マークをつけられない。	—

パソコン

症状	原因	処置
対応しているOSが分からない。	—	→「パソコンの推奨使用環境」を確認する（**別冊基本編** ➡ 40ページ）。
USBドライバーをインストールできない。	—	→ Windows 2000を使用している場合は、Administrator（管理者権限）でログオンする（**別冊基本編** ➡ 41ページ）。
本機がパソコンに認識されない。	● 本機の電源が入っていない。	→ 本機の電源を入れる（**別冊基本編** ➡ 13ページ）。
	● バッテリー残量が少ない。	→ ACパワーアダプターを使用する（**別冊基本編** ➡ 12ページ）。
	● 付属のUSBケーブルを使っていない。	→ 付属のUSBケーブルを使う（**別冊基本編** ➡ 45ページ）。
	● USBケーブルがしっかり差し込まれていない。	→ 一度パソコンと本機からケーブルを抜いて、しっかりと差し込み、「USBモード」になっていることを確認する（**別冊基本編** ➡ 45ページ）。
	● Windows XP、Mac OS X以外をお使いの場合で、SET UPの［USB接続］が［PTP］になっている。	→［標準］にする（76ページ）。
	● パソコンのUSB端子に本機の他に機器が接続されている。	→ キーボード／マウス以外は取りはずす。
	● USBドライバーがインストールされていない。	→ USBドライバをインストールする（**別冊基本編** ➡ 41ページ）。
画像をコピーできない。	● 本機とパソコンの接続が正しくない。	→ 本機とパソコンを正しくUSB接続する（上記の参照ページ）。
	● お使いのOSによって手順が違う。	→ お使いのOSに対応した手順でコピーする（**別冊基本編** ➡ 46、49、55ページ）。
	—	→「PIXELA ImageMixer for Sony」ソフトウェアをお使いの場合は、44ページをご覧になるか、ヘルプをご覧ください。

パソコン（つづき）

症状	原因	処置
画像を再生できない。	— —	➔「PIXELA ImageMixer for Sony」ソフトウェアをお使いの場合は、46ページをご覧になるか、ヘルプをご覧ください。 ➔ パソコンメーカーまたはソフトウェアメーカーにお問い合わせください。
動画を再生すると画像や音が途切れる。	● “メモリースティック”から直接再生している。	➔ パソコンのハードディスクに動画をコピーして、ハードディスクのファイルを再生する（44、51ページ）。
画像を印刷できない。	— —	➔ お使いのプリンターの設定を確認してください。 ➔ 47ページをご覧になるか、「PIXELA ImageMixer for Sony」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
付属のCD-ROMをパソコンにセットするとエラーメッセージが表示される。	● パソコンのディスプレイの設定が正しくない。	➔ パソコンのディスプレイの設定を次のようにする。 Windowsの場合： 800×600ドット以上 High Color（16bitカラー、65 000色）以上 Macintoshの場合：800×600ドット以上 32 000色モード以上

“メモリースティック”

症状	原因	処置
本機に入らない。	●“メモリースティック”を入れる向きが違っている。	➔正しい向きにして入れる（**別冊基本編** ➡ 16ページ）。
記録できない。	●“メモリースティック”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。 ●“メモリースティック”の容量がいっぱいになっている。	➔解除する（78ページ）。 ➔不要な画像を削除する（**別冊基本編** ➡ 34ページ）。
フォーマットできない。	●“メモリースティック”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	➔解除する（78ページ）。
誤ってフォーマットしてしまった。	●フォーマットすると、“メモリースティック”内の画像はすべて消去され、元に戻せない。	➔“メモリースティック”の誤消去防止スイッチを「LOCK」にすると誤フォーマットを防げます（78ページ）。

その他

症状	原因	処置
操作を受け付けない。	● “ インフォリチウム ”バッテリーを使っていない。 ● バッテリーが残り少ない（▭表示が出る）。 ● ACパワーアダプターがしっかり差し込まれていない。 ● 内部システムの誤動作。	→ バッテリーは必ず“ インフォリチウム ”バッテリーを使う（79ページ）。 → 充電する（**別冊基本編** ➞ 9ページ）。 → DC IN端子とコンセントにしっかり差し込む（**別冊基本編** ➞ 12ページ）。 → 電源を切り、1分後に電源を入れて、正しく動作するか確認する。
電源が入っているのに操作できない。	● 内部システムの誤動作。	→ バッテリーを取りはずし、約1分後再びバッテリーを取り付け、電源を入れる。これでも操作できないときは、バッテリー／“ メモリースティック ”カバー内側のRESETボタンを先の細いもので押してから、電源を入れる。（この操作をすると日時などの設定が解除される。）
画面上の表示が分からない。	—	→ 表示の種類を確認する（83〜85ページ）。
レンズがくもる。	● 結露している。	→ 約1時間そのままにしてから使用する（77ページ）。
再生画が小さい。	● 他機で撮影した2560×1920より大きい画像サイズのファイルを再生しようとした。	—
長時間使用すると、本機が熱くなる。	—	→ 故障ではない。

警告表示について

画面には次のような表示が出ることがあります。

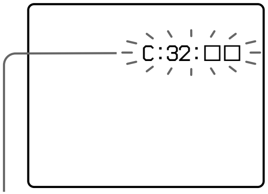
表示	意味／処置
メモリースティックがありません	●“ メモリースティック ”を入れてください（**別冊基本編** ➡ 16ページ）。
システムエラー	● 電源を入れ直してください（**別冊基本編** ➡ 13ページ）。
メモリースティックエラー	● 本機では使えない“ メモリースティック ”が入っている（78ページ）。 ●“ メモリースティック ”が壊れている、または“ メモリースティック ”の端子部が汚れている。 ●“ メモリースティック ”を正しく入れてください（**別冊基本編** ➡ 16ページ）。
非対応メモリースティックです	● 本機では使えない“ メモリースティック ”が入っている（78ページ）。
フォーマットエラー	●“ メモリースティック ”が正しくフォーマットされていない。フォーマットし直してください（**別冊基本編** ➡ 38ページ）。
メモリースティックがロックされています	●“ メモリースティック ”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。解除してください（78ページ）。
メモリースティックの残量がありません	●“ メモリースティック ”の空き容量が足りないので、記録ができない。不要な画像を削除してください（**別冊基本編** ➡ 34ページ）。
記録できません	● 本機では記録できないフォルダを選択した。他のフォルダを選択してください（27ページ）。
これ以上フォルダ作成できません	● 作成できるフォルダ数が最大数に達した（26ページ）。
このフォルダにはファイルがありません	● 選択しているフォルダに画像が記録されていない（28ページ）。 ● フォルダ作成機能のないカメラで撮影した“ メモリースティック ”を本機に挿入した。
ファイルエラー	● 画像再生時の異常。

表示	意味／処置
ファイルがプロテクトされています	• 画像にプロテクトがかけられている。
“ インフォリチウム ”バッテリーを使ってください	• “ インフォリチウム ”対応以外のバッテリーを使っている。
フォルダーエラー	• “ メモリースティック ”内に同じ番号のフォルダが存在する。
画像サイズオーバーです	• 本機で再生できないサイズの画像を再生しようとしている。
無効な操作です	• 本機以外で作成したファイルを再生しようとしている。
	• バッテリーの残量が少ない。バッテリーを充電してください（**別冊基本編** → 9ページ）。ご使用状況やバッテリーパックの種類によっては、バッテリー残量が5分から10分でも点滅することがあります。
分割できません	• 分割できる充分な長さがない。 • 動画（MPEGムービー）ではない。
	• 光量が不足している、またはシャッタースピードが遅く設定されている。 • 手ぶれが起こりやすい状況になっている。フラッシュを使うか、三脚などでカメラをしっかりと固定してください。
“ ナイトショット ”	• NIGHTSHOT時に無効な操作をした。
“ ナイトフレーミング ”	• NIGHTFRAMING時に無効な操作をした。
ナイトショットは無効です	• NIGHTSHOT時に、モードダイヤルを「」または「P」、「」以外にしている。 • SET UPの［コンバージョンレンズ］を［入］にしている。
ナイトフレーミングは無効です	• NIGHTFRAMING時に、モードダイヤルを「」または「P」、「（クリップモーションのみ）」以外にしている。 • SET UPの［コンバージョンレンズ］を［入］にしている。
マニュアルフォーカスは無効です	• NIGHTFRAMING時に、マニュアルフォーカス／ズームリングを回した。 • モードダイヤルが「」のときに、FOCUSスイッチを「MANUAL」にした。

自己診断表示

ー アルファベットで始まる表示が出たら

本機には自己診断機能がついています。これは本機に異常が起きたときに画面にアルファベットと4桁の数字でお知らせする機能です。表示によって、異常の内容が分かるようになっています。
詳しくは右の表をご覧になり、各表示に合った対応をしてください。表示の末尾2桁（□□）の数字は、本機の状態によって変わります。



自己診断表示

表示	原因	対応のしかた
C:32:□□	ハードウェアの異常。	● 電源を入れ直す（**別冊基本編** ➡ 13ページ）。
C:13:□□	データが読めない／書けない。	●“メモリースティック”を数回抜き差しする。
	フォーマットしていない“メモリースティック”を入れた。	● フォーマットをする（**別冊基本編** ➡ 38ページ）。
	本機では使えない“メモリースティック”を入れた。または、データが壊れている。	●“メモリースティック”を交換する（**別冊基本編** ➡ 16ページ）。
E:61:□□ E:91:□□	何らかの異常が起きている。	● バッテリー／“メモリースティック”カバー内側のRESETボタン（**別冊基本編** ➡ 7ページ）を押してから、電源を入れる。

「対応のしかた」を2、3度繰り返しても正常な状態に戻らないときは、テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。その際、表示の5桁のすべてをお知らせください。
例:E:61:10

記録枚数／時間について

“ メモリースティック ”の容量、画像サイズ、画質によって記録できる撮影枚数、撮影時間が異なります。
右の表を参考に用途に応じて“ メモリースティック ”をお選びください。

- 撮影枚数はファイン（スタンダード）の順で記載しています。
- 記録枚数／時間は撮影状況によっては数値と異なる場合があります。
- 通常撮影時の記録枚数については**別冊基本編** ➡ 30ページをご覧ください。
- 撮影残枚数が9999枚より多いときは、＞9999と表示されます。

Eメール

（単位：枚）

容量 / 画像サイズ	16MB	32MB	64MB	128MB	MSX-256	MSX-512	MSX-1G
2560×1920	6 (11)	12 (23)	25 (47)	51 (95)	91 (170)	186 (345)	380 (705)
2560（3:2）	6 (11)	12 (23)	25 (47)	51 (95)	91 (170)	186 (345)	380 (705)
2048×1536	10 (18)	20 (36)	40 (73)	81 (146)	145 (255)	296 (518)	604 (1058)
1280×960	24 (44)	49 (89)	98 (179)	197 (359)	340 (595)	691 (1210)	1411(2470)
640×480	88 (194)	178 (392)	358 (788)	718 (1580)	1190 (2381)	2420 (4841)	4940(9881)

TIFF

（単位：枚）

容量 / 画像サイズ	16MB	32MB	64MB	128MB	MSX-256	MSX-512	MSX-1G
2560×1920	0 (0)	1 (1)	3 (4)	7 (8)	13 (14)	27 (29)	56 (60)
2560（3:2）	1 (1)	2 (2)	4 (4)	8 (8)	14 (16)	30 (32)	62 (67)
2048×1536	0 (1)	1 (2)	3 (4)	7 (8)	14 (14)	29 (30)	59 (62)
1280×960	1 (1)	2 (2)	4 (4)	8 (8)	15 (15)	30 (31)	62 (64)
640×480	1 (1)	2 (2)	4 (4)	8 (8)	15 (15)	31 (32)	65 (65)

ボイスメモ

（単位：枚）

容量 / 画像サイズ	16MB	32MB	64MB	128MB	MSX-256	MSX-512	MSX-1G
2560×1920	6 (11)	12 (22)	25 (45)	50 (91)	90 (166)	183 (337)	375 (689)
2560（3:2）	6 (11)	12 (22)	25 (45)	50 (91)	90 (166)	183 (337)	375 (689)
2048×1536	9 (11)	19 (34)	39 (69)	79 (138)	142 (246)	290 (500)	592 (1022)
1280×960	22 (38)	45 (78)	91 (157)	183 (316)	324 (549)	660 (1117)	1347 (2280)
640×480	69 (121)	140 (245)	281 (492)	564 (987)	1020 (1785)	2074 (3630)	4234 (7410)

クリップモーション

（単位：枚）

	16MB	32MB	64MB	128MB	MSX-256	MSX-512	MSX-1G
ノーマル	88	178	358	718	1190	2420	4940
モバイル	486	982	1971	3951	3571	7261	14821

ノーマル：10コマで撮影した場合

モバイル：2コマで撮影した場合

MPEGムービー

（単位：秒）

	16MB	32MB	64MB	128MB	MSX-256	MSX-512	MSX-1G
320 (HQX)	42	87	176	354	641	1304	2663
320×240	174	352	708	1419	2567	5221	10657
160×112	673	1363	2740	5494	9935	20203	41239

マルチ連写

（単位：枚）

	16MB	32MB	64MB	128MB	MSX-256	MSX-512	MSX-1G
1280×960	24 (46)	50 (93)	101 (187)	202(376)	357(649)	726(1320)	1482(2694)

メニュー項目について

モードダイヤルの位置によって操作できる項目は変わります。画面には、設定可能な項目のみが表示されます。
■印はお買い上げ時の設定です。

モードダイヤルが「📷」のとき

項目	設定	意味
(画像サイズ)	■2560×1920／2560（3:2）／2048×1536／1280×960／640×480	静止画撮影時の画像サイズを選ぶ（**別冊基本編** → 17ページ）。
MODE（**撮影モード**）	TIFF	ー JPEGファイルと別にTIFF（非圧縮）ファイルを記録する（22ページ）。
	ボイスメモ	ー JPEGファイルと別に、音声ファイル（静止画付き）を記録する（23ページ）。
	Eメール	ー 設定されている画像サイズと別に小サイズ（320×240）のJPEGファイルを記録する（23ページ）。
	ブラケット	ー 3通りの異なった露出で静止画を3枚撮影する（15ページ）。
	3枚連写	ー 3枚連写する（21ページ）。
	■通常撮影	ー 通常の撮影をする。

モードダイヤルが「P」、「S」、「A」、「M」、「SCN」のとき

項目	設定	意味
SCN	■／／／	シーンセレクションを設定する（**別冊基本編** → 27ページ）。（「SCN」モードの時のみ設定できます。）
ISO	800／400／200／100／■オート	ISO感度を選ぶ。大きい数字を選ぶと暗い場所での撮影の明るさを補います。ただし、感度を上げると撮影した画像が粗くなることがあります。（「SCN」モードの時は設定できません。）
（画像サイズ）	■2560×1920／2560（3:2）／2048×1536／1280×960／640×480	静止画撮影時の画像サイズを選ぶ（**別冊基本編** → 17ページ）。
（画質）	■ファイン／スタンダード	高画質で記録する。／標準の画質で記録する。（**別冊基本編** → 29ページ）
MODE（**撮影モード**）	TIFF ボイスメモ Eメール ブラケット 3枚連写 ■通常撮影	－ JPEGファイルと別にTIFF（非圧縮）ファイルを記録する（22ページ）。 － JPEGファイルと別に、音声ファイル（静止画付き）を記録する（23ページ）。 － 設定されている画像サイズと別に小サイズ（320×240）のJPEGファイルを記録する（23ページ）。 － 3通りの異なった露出で静止画を3枚撮影する（15ページ）。 － 3枚連写する（21ページ）。 － 通常の撮影をする。
±（フラッシュレベル）	明 ■標準 暗	－ フラッシュの発光量を通常より多くする。 － 通常の設定。 － フラッシュの発光量を通常より少なくする。
PFX（P.**エフェクト**）	ソラリ／セピア／ネガアート／■切	画像の特殊効果を設定する（24ページ）。
（シャープネス）	＋2／＋1／■0／－1／－2	画像のシャープネスを調節する。設定が0以外のときは、画面にが出る。

その他

モードダイヤルが「🎞」のとき（SET UPの［動画選択］が［MPEGムービー］のとき）

項目	設定	意味
(画像サイズ)	320(HQX)／320×240／ ■160×112	動画撮影時にMPEG画像のサイズを選ぶ（37ページ）。
PFX（P.エフェクト）	ソラリ／セピア／ネガアート／■切	画像の特殊効果を設定する（24ページ）。

モードダイヤルが「🎞」のとき（SET UPの［動画選択］が［クリップモーション］のとき）

項目	設定	意味
(画像サイズ)	■ ノーマル／モバイル	クリップモーションの画像サイズを選ぶ（19ページ）。
±(フラッシュレベル)	明 ■標準 暗	ーフラッシュの発光量を通常より多くする。 ー通常の設定。 ーフラッシュの発光量を通常より少なくする。
PFX（P.エフェクト）	ソラリ／セピア／ネガアート／■切	画像の特殊効果を設定する（24ページ）。
(シャープネス)	＋2／＋1／■0／– 1／– 2	画像のシャープネスを調節する。設定が0以外のときは、画面にが出る。

モードダイヤルが「🎞」のとき（SET UPの［動画選択］が［マルチ連写］のとき）

項目	設定	意味
(インターバル)	1/7.5／1/15／■1/30（NTSC） 1/6.3／1/12.5／■1/25（PAL）	マルチ連写する時のシャッター間隔を設定する（20ページ）。 SET UPの［ビデオ出力信号］の設定によって、選択できるシャッター間隔が変わります（76ページ）。
(画質)	■ファイン／スタンダード	高画質で記録する。／標準の画質で記録する。（**別冊基本編** ➡ 29ページ）
PFX（P.エフェクト）	ソラリ／セピア／ネガアート／■切	画像の特殊効果を設定する（24ページ）。
(シャープネス)	＋2／＋1／■0／– 1／– 2	画像のシャープネスを調節する。設定が0以外のときは、画面にが出る。

モードダイヤルが「▶」のとき

項目	設定	意味
フォルダ	実行／キャンセル	再生したい画像の入っているフォルダを選ぶ（28ページ）。
削除	ー	画像を削除する（**別冊基本編** ➡ 34ページ、本書39ページ）。
プロテクト	ー	画像に誤消去防止指定をする（32ページ）。
DPOF	ー	プリント予約したい静止画像を選ぶ（35ページ）。
スライドショー	間隔設定	– スライドショーの間隔を設定する（30ページ）。（シングル画面のときのみ） ■3秒／5秒／10秒／30秒／1分
	再生画像	– 再生する範囲を設定する。 ■フォルダ内／全て
	繰り返し	– スライドショーを繰り返し再生する。 ■入／切
	スタート	– スライドショーを実行する。
	キャンセル	– スライドショーの設定および実行を中止する。
リサイズ	2560×1920／2048×1536／1280×960／640×480／キャンセル	撮影した静止画の画像サイズを変更する（34ページ）。 （シングル画面のときのみ）
回転	↶／↷／実行／キャンセル	静止画像を↶左回りまたは、↷右回りに回転する（31ページ）。 （シングル画面のときのみ）
分割	実行／キャンセル	動画（MPEGムービー）を分割する（41ページ）。 （シングル画面のときのみ）

SET UP項目について

モードダイヤルを「SET UP」にすると、SET UP画面が表示されます。
■印はお買い上げ時の設定です。

1（カメラ1）

項目	設定	意味
動画選択	■MPEGムービー／クリップモーション／マルチ連写	動画の撮影モードを選ぶ（19、20、37ページ）。
日付/時刻	日時分／年月日／■切	画像に日付や時刻を挿入するかどうか設定する（**別冊基本編** → 26ページ）。 動画（MPEGムービー）／クリップモーション／マルチ連写では、日付・時刻は挿入されません。 また、撮影時は日付や時刻は表示されず、再生時に表示されます。
デジタルズーム	■入／切	デジタルズームを使うかどうかを選ぶ（**別冊基本編** → 21ページ）。
赤目軽減	入／■切	フラッシュ撮影時、被写体の目が赤く写るのを抑制する（**別冊基本編** → 24ページ）。
ホログラフィックAF	■オート／切	暗いところで撮影するとき、ホログラフィックAFを発光させるかどうかを選ぶ（**別冊基本編** → 25ページ）。フォーカスを合わせやすいようにするための機能です。
コンバージョンレンズ	入／■切	別売りコンバージョンレンズVCL-HGD0758またはVCL-HGD1758を使うときは［切］、VCL-MHG07を使うときは［入］にする。コンバージョンレンズを取り付けていると、重みでレンズ部を固定できません。左手でレンズ部をささえて撮るか、三脚のご使用をおすすめします。

［コンバージョンレンズ］が［入］のときのご注意

- モードダイヤルが「A」または「M」になっていると、絞り値はF4以上しか選べません。
- マクロ撮影、ズームはできません。

2（カメラ2）

項目	設定	意味
拡大フォーカス表示	■入／切	マニュアルフォーカス時、画面中央部が2倍に表示される（10ページ）。
ブラケット設定	±1.0EV／■±0.7EV／±0.3EV	露出を変えて3枚の画像を撮影するときの露出の振り幅を設定する（15ページ）。
ホットシュー	入／■切	市販の外付けフラッシュを使うときに設定する（25ページ）。
ズームリング設定	W↶↷T／■T↶↷W	フォーカス／ズームリングでズームを調節する際、リングを回す方向を設定する（**別冊基本編** → 21ページ）。

（メモリースティックツール）

項目	設定	意味
フォーマット	実行／キャンセル	"メモリースティック"をフォーマット（初期化）する。フォーマットすると、プロテクトしてある画像もふくめて、"メモリースティック"に記録されているすべての情報が消去されます。ご注意ください（**別冊基本編** → 38ページ）。
記録フォルダ作成	実行／キャンセル	新しいフォルダを作成する（26ページ）。
記録フォルダ変更	実行／キャンセル	画像を記録するフォルダを変更する（27ページ）。

(設定1)

項目	設定	意味
LCD明るさ	明／■標準／暗	液晶画面の明るさを選ぶ。記録される画像に影響はない。
LCDバックライト	明／■標準	液晶バックライトの明るさを選ぶ。屋外など明るい場所で使うときに［明］を選ぶと画面は明るく見やすくなるが、バッテリーの消耗は早くなる。バッテリー使用時のみ表示される項目。
EVFバックライト	明／■標準	EVFバックライトの明るさを選ぶことができる。屋外など明るい場所で使うときに［明］を選ぶと画面は明るく見やすくなるが、バッテリーの消耗は早くなる。
お知らせブザー	シャッター ■入 切	– シャッターボタンを押したとき、シャッター音が鳴る。 – コントロールボタン／シャッターボタンを押したときなどに、ブザー／シャッター音が鳴る。 – 音は鳴らない。

(設定2)

項目	設定	意味
ファイルナンバー	■連番 リセット	– 記録フォルダを変更したり、“ メモリースティック ”を取り換えても、ファイル番号を連続してつける。 – フォルダごとにファイル番号を0001からつける。
USB接続	PTP／■標準	USB接続方法を選ぶ（**別冊基本編** ➡ 40ページ）。
ビデオ出力信号	■NTSC PAL	– ビデオ出力信号をNTSCモードに設定する（日本、米国など）。 – ビデオ出力信号をPALモードに設定する（欧州など）。
Ⓐ言語/ LANGUAGE	ENGLISH ■日本語／JPN	– メニュー項目・警告表示などを英語で表示する。 – メニュー項目・警告表示などを日本語で表示する。
時計設定	実行／キャンセル	時計を合わせる（**別冊基本編** ➡ 14ページ）。

使用上のご注意

お手入れについて

液晶画面をきれいにする

液晶画面に指紋やゴミがついて汚れたときは、別売りの液晶クリーニングキットを使ってきれいにすることをおすすめします。

レンズをきれいにする

レンズに指紋やゴミがついて汚れたときは、柔らかい布などを使ってきれいにすることをおすすめします。

表面のお手入れについて

水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽くふいたあと、からぶきします。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください 。

海岸やほこりの多い場所で使ったあとは

カメラをよく清掃してください。潮風で金属が腐食したり、砂ぼこりが内部に入ったりすると故障の原因になります。

動作温度にご注意ください

本機の動作温度は約0℃〜40℃です。動作温度範囲を越える極端に寒い場所や暑い場所での撮影はおすすめできません。

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の内部や外部に水滴が付くことです。この状態でお使いになると、故障の原因になります。

結露が起こりやすいのは

- スキー場のゲレンデから暖房の効いた場所へ持ち込んだとき
- 冷房の効いた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき、など。

結露を起こりにくくするために

本機を寒いところから急に暖かい所に持ち込むときは、ビニール袋に本機を入れて、空気が入らないように密閉してください。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

結露が起きたときは

電源を切って結露がなくなるまで約1時間放置し、結露がなくなってからご使用ください。特にレンズの内側についた結露が残ったまま撮影すると、きれいな画像を記録できませんのでご注意ください。

内蔵の充電式ボタン電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入／切に関係なく保持するために充電式ボタン電池を内蔵しています。
充電式ボタン電池は本機を使用している限り常に充電されていますが、使う時間が短いと徐々に放電し1か月程度まったく使わないと完全に放電してしまいます。充電してから使用してください。
ただし、充電式ボタン電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使うことができます。

充電方法

本機をACパワーアダプターを使ってコンセントにつなぐか、充電されたバッテリーを取り付け、電源を切ったまま24時間以上放置する。

“ メモリースティック ” について

“ メモリースティック ”は、小さくて軽く、しかもフロッピーディスクより容量が大きい新世代のIC記録メディアです。“ メモリースティック ”対応機器間でデータをやりとりするのにお使いいただけるだけでなく、着脱可能な外部記録メディアの1つとしてデータの保存にもお使いいただけます。

“ メモリースティック ”には、一般の“ メモリースティック ”と著作権保護技術(マジックゲート*)を搭載したタイプの“ メモリースティック ”があります。

本機ではマジックゲート搭載の“ メモリースティック ”と一般の“ メモリースティック ”のどちらもご使用いただけます。ただし、本機はマジックゲート規格に対応していないため、本機で記録したデータは著作権の保護の対象にはなりません。

また、本機では“ メモリースティック デュオ ”、“ メモリースティック PRO ”もご使用いただけます。

* “ マジックゲート ”とは暗号化技術を使って著作権を保護する技術です。

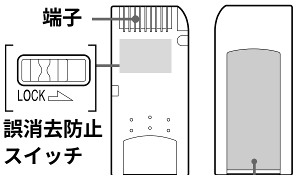
- パソコンでフォーマットした“ メモリースティック ”では、本機での動作を保証しません。

“ メモリースティック ”の種類	記録／再生
メモリースティック (メモリースティック　デュオ)	○
マジックゲート メモリースティック (マジックゲート メモリースティック　デュオ)	○**
メモリースティック　PRO	○**

** マジックゲート機能が必要なデータの記録／再生はできません。
すべてのメモリースティック・メディアの動作を保証するものではありません。

“ メモリースティック ”(付属) 使用上のご注意

- 誤消去防止スイッチを「LOCK」にすると記録や画像消去ができません。



誤消去防止スイッチの位置や形状は、お使いの“ メモリースティック ”によって異なることがあります。

- データの読み込み中、書き込み中には“ メモリースティック ”を取り出さないでください。
- 以下の場合、データが破壊されることがあります。
  - 読み込み中、書き込み中に“ メモリースティック ”を取り出したり、本機の電源を切った場合
  - 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合
- 大切なデータは、バックアップを取っておくことをおすすめします。
- ラベル貼り付け部には、専用ラベル以外は貼らないでください。
- ラベルを貼るときは、所定のラベル貼り付け部に貼ってください。はみ出さないようにご注意ください。
- 持ち運びや保管の際は、付属の収納ケースに入れてください。
- 端子部には手や金属で触れないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水にぬらさないでください。

- 以下のような場所でのご使用や保存は避けてください。
  —高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所
  —直射日光のあたる場所
  —湿気の多い場所や腐食性のものがある場所

“ メモリースティック　デュオ ”(別売り) 使用上のご注意

- “ メモリースティック　デュオ ”を本機でお使いの場合は、必ず“ メモリースティック　デュオ ”を“ メモリースティック　デュオ ”アダプターに入れてからお使いください。
- “ メモリースティック　デュオ ”を“ メモリースティック　デュオ ”アダプターに入れるときは正しい挿入方向をご確認ください。
- “ メモリースティック　デュオ ”を“ メモリースティック　デュオ ”アダプターに装着して本機でご使用になるときは、正しい挿入方向をご確認の上ご使用ください。間違ったご使用は機器の破損の原因となりますのでご注意ください。
- “ メモリースティック　デュオ ”アダプターに“ メモリースティック　デュオ ”が装着されていない状態で、“ メモリースティック ”対応機器に挿入しないでください。このような使いかたをすると、機器に不具合が生じることがあります。

“ メモリースティック　PRO ”(別売り) 使用上のご注意

本機で動作確認されている“ メモリースティック　PRO ”は1GBまでです。

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーについて

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーとは？

“ インフォリチウム ”バッテリーは、本機との間で、使用状況に関するデータを通信する機能を持っているリチウムイオンバッテリーです。
“ インフォリチウム ”バッテリーが、本機の使用状況に応じた消費電力を計算してバッテリー残量を分単位で表示します。

充電について

周囲の温度が10〜30℃の環境で充電してください。これ以外では、効率のよい充電ができないことがあります。

バッテリーの上手な使い方

- 周囲の温度が低いとバッテリーの性能が低下するため、使用できる時間が短くなります。より長い時間ご使用いただくために、バッテリーをポ

ケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前、本機に取りつけることをおすすめします。
- ズームやフラッシュを使用した撮影を頻繁にすると、バッテリーの消耗が早くなります。
- 撮影には予定撮影時間の2～3倍の予備バッテリーを準備して、事前に試し撮りをしてください。
- バッテリーは防水構造ではありません。水などに濡らさないようにご注意ください。

バッテリーの残量表示について

バッテリーの残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる場合は、本機で使い切ってから再度満充電してください。残量が正しく表示されます。ただし長時間高温で使用したり、満充電で放置した場合や、使用回数が多いバッテリーは正しい表示に戻らない場合があります。

バッテリーの保管方法について

- バッテリーを長時間使用しない場合でも、機能を維持するために1年に1回程度満充電にして本機で使い切ってください。本機からバッテリーを取りはずして、湿度の低い涼しい場所で保管してください。
- 本機でバッテリーを使い切るには、「スライドショー」再生（30ページ）にして、電源が切れるまでそのままにしてください。

バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをご購入ください。
- 寿命は、保管方法、使用状況や環境、バッテリーパックごとに異なります。

主な仕様

本体

システム

撮像素子 11 mm（2/3型）カラーCCD
原色フィルター

総画素数 約5 240 000画素

カメラ有効画素数
約5 020 000画素

レンズ 5倍ズームレンズ
f=9.7～48.5 mm（35 mmカメラ換算では38～190 mm）、F2.0～2.4
フィルター径：58 mm

露出制御 自動、シャッター優先、
絞り優先、マニュアル露出、シーンセレクション（4モード）

ホワイトバランス
オート、太陽光、曇天、蛍光灯、電球、ワンプッシュ

記録方式（DCF準拠）
静止画：Exif Ver. 2.2 JPEG準拠、GIF（クリップモーション時）、TIFF、DPOF対応
音声付静止画：MPEG1準拠（モノラル）
動画：MPEG1準拠（モノラル）

記録メディア
“ メモリースティック ”

フラッシュ　推奨撮影距離0.3〜4.5 m
（ISO感度がオートのとき）

ファインダー
電子ファインダー（カラー）

入／出力端子

A/V OUT（MONO）**端子（モノラル）**
ミニジャック
映像：1 Vp-p、75 Ω不平衡、同期負
音声：327 mV（47 kΩ負荷時）
出力インピーダンス2.2 kΩ

ACC端子　ミニミニジャック（Ø2.5 mm）

USB端子　mini-B

液晶画面

使用液晶パネル
4.6 cm（1.8型）TFT駆動

総ドット数　123 200（560×220）ドット

電源・その他

使用バッテリー
NP-FM50（付属）

電源電圧バッテリー端子入力
7.2 V

消費電力（撮影時）
2.3 W

動作温度　0°C〜＋40°C

保存温度　–20°C〜＋60°C

外形寸法　119.5×68.9×151 mm（幅×高さ×奥行き、最大突起部を除く）

本体質量　約696 g（バッテリーNP-FM50、" メモリースティック "、ショルダーストラップ、レンズキャップなど含む）

内蔵マイクロホン
エレクトレットコンデンサマイクロホン

内蔵スピーカー
ダイナミックスピーカー

ACパワーアダプターAC-L10A

電源　AC100〜240 V、50/60 Hz

定格出力　DC8.4 V、1.5 A

動作温度　0°C〜＋40°C

保存温度　–20°C〜＋60°C

外形寸法　約125×39×62 mm（幅×高さ×奥行き、最大突起部を除く）

本体質量　約280 g

バッテリーNP-FM50

使用電池　リチウムイオン蓄電池

最大電圧　DC8.4 V

公称電圧　DC7.2 V

容量　8.5 Wh（1 180 mAh）

動作温度　0°C〜＋40°C

最大外形寸法
約38.2×20.5×55.6 mm
（幅×高さ×奥行き）

本体質量　約76 g

付属品

- ACパワーアダプターAC-L10A
- 電源コード
- USBケーブル
- バッテリーパックNP-FM50
- A/V接続ケーブル
- " メモリースティック "（32 MB）
- ショルダーストラップ
- レンズキャップ
- レンズキャップ用ひも
- CD-ROM（USBドライバーSPVD-008）
- サイバーショット基本編
- サイバーショット応用編／困ったときは
- 安全のために
- 保証書

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

必ずお読みください

記録内容の補償はできません

万一、デジタルスチルカメラや“メモリースティック”などの不具合などにより記録や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

保証書は国内に限られています

このデジタルスチルカメラは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

「故障かな？と思ったら」の項を参考にして故障かどうかお調べください。

それでも具合の悪いときは

テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の交換について

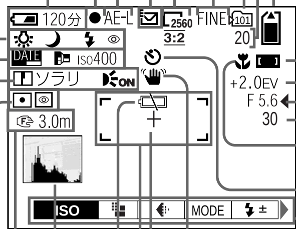
この商品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

部品の保有期間について

当社はデジタルスチルカメラの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間が経過した後も、故障個所によっては修理可能の場合がありますので、テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。

画面上の表示

静止画撮影時



撮影モード表示（15、21〜23）

AE LOCK**表示**（14）

AE/AF**ロック表示**（**別冊基本編** ➡ 18）

バッテリー残量表示（**別冊基本編** ➡ 10）

ホワイトバランス表示（16）／**モードダイヤル表示**／**フラッシュモード表示**（**別冊基本編** ➡ 24）／**赤目軽減表示**（**別冊基本編** ➡ 24）／**ホットシュー表示**（25）

日付／時刻表示（**別冊基本編** ➡ 26）／**コンバージョンレンズモード表示**（74）／ISO**感度表示**（71）

シャープネス表示（71、72）／**ピクチャーエフェクト表示**（24）／**ホログラフィック**AF**表示**（**別冊基本編** ➡ 25）

測光モード表示（13）／**ナイトショット**／**ナイトフレーミング表示**（17、18）

フォーカス距離表示（10）

ヒストグラム表示（12）

バッテリープリエンド表示（66）

画像サイズ表示（**別冊基本編** ➡ 17）

画質表示（**別冊基本編** ➡ 29）

記録フォルダ表示（26）

撮影残枚数表示（**別冊基本編** ➡ 30）／**自己診断表示**（67）

“ メモリースティック ”残量表示

測距枠表示（8）

EV**補正表示**（11）

絞り値表示（7）

シャッタースピード表示（6）

マクロ表示（**別冊基本編** ➡ 22）

セルフタイマー表示（**別冊基本編** ➡ 23）

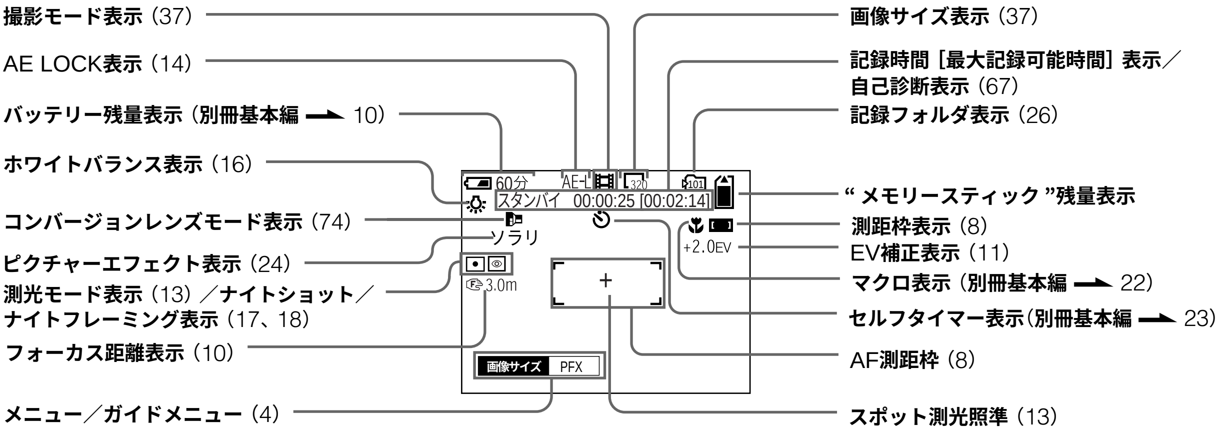
メニュー／ガイドメニュー（4）

手ぶれ警告表示

スポット測光照準（13）

AF**測距枠**（8）

動画撮影時



- メニュー／ガイドメニューは、MENUボタンを押すと、表示／非表示が切り換わります。

別冊の「サイバーショット基本編」に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、「**別冊基本編 ➡**ページ番号」のようにご案内しています。

静止画再生時

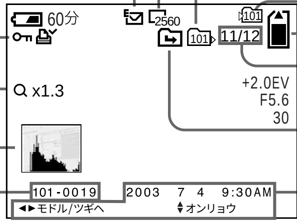
撮影モード表示（15、21〜23）

プロテクト表示（32）／
プリント予約マーク表示（35）／音量表示（23）

ズーム表示（29）

ヒストグラム表示（12）

ファイル名（別冊基本編 ➡ 52）



画像サイズ表示（別冊基本編 ➡ 17）

再生フォルダ表示（28）

記録フォルダ表示（30、34）

“メモリースティック”残量表示

画像番号／再生フォルダ内画像枚数

フォルダ移動表示（28）

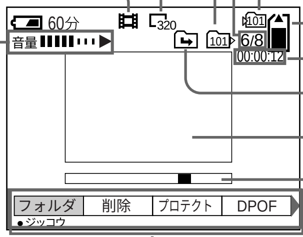
画像の記録日時表示（別冊基本編 ➡ 14）
／メニュー／ガイドメニュー（4）

動画再生時

画像サイズ表示（38）

撮影モード表示（38）

音量表示（38）／再生表示（38）



再生フォルダ表示（28）

画像番号／再生フォルダ内画像枚数

記録フォルダ表示（42）

“メモリースティック”残量表示

カウンター（38）

フォルダ移動表示（28）

再生画像（38）

再生バー（38）

メニュー／ガイドメニュー（4）

別冊の「サイバーショット基本編」に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、「**別冊基本編 ➡ ページ番号**」のようにご案内しています。

用語の解説

インストール（別冊基本編 ➡ 41ページ、本書43、49ページ）
ソフトウェアなどをコンピュータにコピーして組み込むことです。

“インフォリチウム”バッテリー（79ページ）
“インフォリチウム”に対応している機器とバッテリーの使用状況に関するデータ通信を行うことができるバッテリーのことです。

オートパワーオフ機能（別冊基本編 ➡ 13ページ）
本機の電源を入れたまま約3分間操作をしないと、バッテリーの消耗を防ぐため、本機の電源を自動的に切る機能のことです。

シャッタースピード（6ページ）
撮影時にCCDに光を蓄積する時間のことです。シャッタースピードを速くすると動きのある被写体も止まって写り、遅くすると流れて写ります。

デジタルズーム（別冊基本編 ➡ 21ページ）
デジタル処理により画像を拡大する機能のことです。光学式ズームに比べて画質は劣ります。

ドライバー
どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピュータ側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアのことです。

半押し（別冊基本編 ➡ 18ページ）
シャッターを押し込まず、半分押した状態にしておくことです。シャッターを半押しすると、撮影状況に合わせてピントや露出を自動で調整します。

ピント（別冊基本編 ➡ 18ページ）
被写体に対する焦点のことです。本機はピントを自動で調整しますが、手動で調整することもできます。

フォーマット（別冊基本編 ➡ 38ページ）
「初期化」とも言います。記録メディアにデータを書き込めるようにすることです。フォーマットすると、記録メディアに保存されているデータはすべて消えます。

ホワイトバランス（16ページ）
光源に合わせて色を調整する機能のことです。被写体の見た目の色は光の状況に影響されます。例えば、電球の下で撮影すると白い被写体が赤っぽく映ります。ホワイトバランスを設定すると、自然な色合いで撮影することができます。

“メモリースティック”（78ページ）
小さくて軽く、フロッピーディスクより容量が大きい新世代のIC記録メディアです。

露出（11ページ）
絞りとシャッタースピードの値により決まる光の量のことです。

AE（**別冊基本編 ➡** 18ページ）
「Auto Exposure」の略です。被写体の明るさをカメラが判断し、自動で露出を決める機能のことです。

AF（**別冊基本編 ➡** 18ページ）
「Auto Focus」の略で、カメラが自動でピントを合わせる機能のことです。

CCD（80ページ）
「Charge Coupled Device」の略で、光を電気信号に変換する半導体の一種のことです。

DCF
「Design rule for Camera File system」の略で、(社) 電子情報技術産業協会 (JEITA) で制定された統一規格のことです。

DPOF (35ページ)
「Digital Print Order Format」の略で、「ディーポフ」と読みます。印刷予約したい写真を記録メディア上に指定することができます。

EV (7、11ページ)
「Exposure Value」の略で、露光量を表す単位のことです。

Exif (80ページ)
(社) 電子情報技術産業協会 (JEITA) にて制定された、撮影情報などの付帯情報を追加することができる静止画像用のファイルフォーマットです。

GIF (**別冊基本編** → 53ページ、本書19ページ)
「ジフ」と読みます。静止画ファイルの形式のひとつで、インターネットのホームページ上で表示を行うときに使われる代表的なものです。 本機では、クリップモーションでの撮影時にGIF形式で画像を保存します。

ISO (71ページ)
「イソ」と読みます。
カメラフィルムの光に対する感応度のことです。ISO単位で表します。数値が大きいほど高感度の撮影ができます。

JPEG (**別冊基本編** → 18、53ページ)
「ジェイペグ」と読みます。インターネットで扱う代表的なカラーの静止画を圧縮する形式のことです。本機では、通常の静止画撮影時、JPEG形式で画像を保存します。

MPEG (**別冊基本編** → 53ページ、本書23、37ページ)
「エムペグ」と読みます。カラー動画像の圧縮方式のひとつで、品質の良い画像や高い圧縮形式が得られます。本機では、動画 (MPEGムービー) 撮影時とボイスメモでの撮影時に、音声をMPEG形式で保存します。

OS (**別冊基本編** → 40ページ)
「Operating System」の略で、コンピュータ全体を管理し、コンピュータを操作するのに必要な基本ソフトウェアのことです。

PTP (**別冊基本編** → 40ページ)
「Picture Transfer Protocol」の略です。パソコンに画像データを簡単にコピーできる接続方法のことです。

TIFF (**別冊基本編** → 53ページ、本書22ページ)
「ティフ」と読みます。静止画の保存形式のひとつで、画像データを圧縮しないため、画像が劣化しません。本機では、TIFFモードでの撮影時にTIFF形式で画像を保存します。

USB (**別冊基本編** → 39、45、54ページ)
「Universal Serial Bus」の略です。キーボードやマウスなどのパソコンの周辺機器を接続するための規格のことです。

VGA (**別冊基本編** → 30ページ)
「Video Graphics Array」の略で、640×480の画像サイズのことです。

索引

数字の前に「基」がついているページは別冊基本編のページです。

ア行

カ行

サ行

タ行

ハ行

その他

マ行

ラ行

アルファベット順

デジタル イメージング カスタマー ご登録

電話のおかけ間違いにご注意ください。

お客様へのサポートをより充実させていくため、「カスタマーご登録」をお勧めしています。詳しくは同梱の「カスタマーご登録のお勧め」をご覧ください。

■ **カスタマーご登録およびご登録内容の変更：**
http://www.sony.co.jp/di-regi/
お問い合わせ：**ソニーマーケティング（株）カスタマー専用デスク**
電話：03-5977-7255
受付時間：**月～金曜日　午前10時～午後6時**（ただし、年末、年始、祝日を除く）

お問い合わせ窓口のご案内

ご使用上での不明な点や技術的なご質問

テクニカルインフォメーションセンター
電話：　0564-62-4979
（電話のおかけ間違いにご注意ください。）
受付時間：　月～金曜日　午前9時～午後5時
（ただし、年末、年始、祝日を除く）
お電話の前に以下の内容をご用意ください。
①お客様のカスタマーID
（カスタマーご登録していただくとIDが発行されます。）
②本機の型名（本機底面をご覧ください。）
③本機の製造番号（本機底面をご覧ください。）

修理申し込み

製品の品質には万全を期しておりますが、万一不具合が生じた場合は、左記のテクニカルインフォメーションセンターへお電話ください。
お客様のお宅まで指定宅配便で取りにおうかがいします。

ImageMixer for Sonyに関するお問い合わせ窓口

ピクセラユーザーサポートセンター
電話：　072-224-0181
受付時間：月～日曜日
午前9時～午後5時
（ただし、年末、年始、祝日を除く）
http://www.ImageMixer.com

3078046O2

eco info
この説明書は100%古紙再生紙とVOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川6-7-35
http://www.sony.co.jp/

サイバーショットオフィシャルWEBサイト
http://www.sony.co.jp/cyber-shot/
サイバーショット、マビカの最新情報を掲載。
撮影方法やアクセサリー情報、
パソコン接続に関する情報を掲載しています。

Printed in Japan